

清末小説から 122

2016.7.1

いくたびかの阿英目録14.....樽本照雄 1

漢訳ラム『シェイクスピア物語』の序 2 「区別がつかない論」再び.....樽本照雄 4

漢訳『奇獄』の謎 4完 結論検証篇(下).....沢本香子15

也说林译伊索寓言的原本何在.....苏 建新19

孫毓修『伊索寓言演義』の底本.....沢本郁馬25

论商务印书馆对林译小说的重要作用.....江 曙30

中国のシェイクスピア最新成果.....樽本照雄35 / 清末小説から37

大学で漢語を学習しはじめた1966年、中国で「文化大革命」が表面化しました。あれからもう半世紀が経つ

清末小説研究会 日本〒520-0806 滋賀県大津市打出浜 8 番4-202 樽本照雄方

いくたびかの阿英目録14

樽本照雄

同一書籍に異なる説明 唐弢蔵書のはあい

さきに「漢尼拔」を紹介した。阿英しか実物を見ていないのならば、という話だ。彼が「漢民拔」と誤記すれば、のちの小説目録もそれを写してすべて当然のように誤る。

ところが、同じ書籍を見ているにもかかわらず、編者が違っていると見る目が変わるからか、記録の結果が異なる。おかしいことだと思う。

以下に2種類の蔵書目録がある。

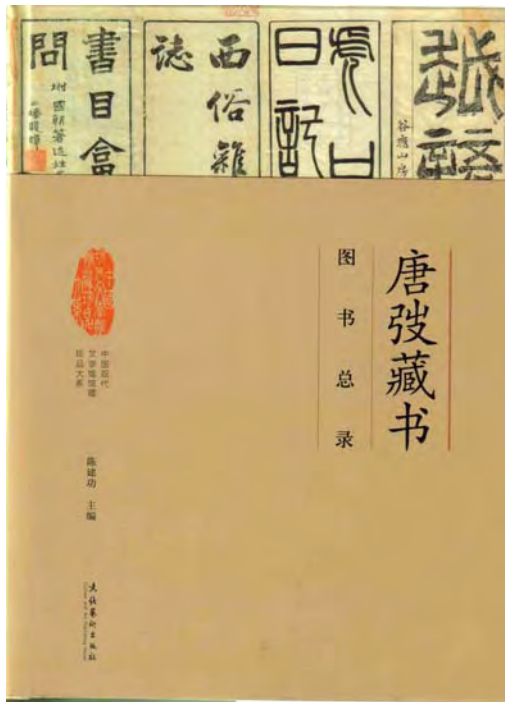
中国現代文学館編『唐弢蔵書目録』内部交流資料 刊年不記(2003) ([唐平]と略す)

陳建功主編『唐弢蔵書・図書総録』北京・文化艺术出版社 2010.10 中国現代文学館蔵珍品大系 ([唐書封][唐書]と略す)

唐弢の蔵書だ。前者は、粗く編集した目録を、まず内部発行本として印刷したらしい。テスト版、試行本といったところだ。意見を広く徴集するためだろう。その7年後に後者の『唐弢蔵書・図書総録』が出版された。寄せられた提言を取り入れたと推測する。

内部交流資料本からの変更点は、統一番号を廃止したこと。また、「著者 訳者 編者」とひとまとめにしていたのを「著者」と「訳者」の2項目に分離させ、版数欄を新しく追加した。

もともとなったのが個人の蔵書だ。目録を作成した編集者は違うかもしれないが、同じ書物を対象にしている。説明が異なるということがあるのだろうか。



たとえば、次の翻訳書がある。樽目録Xから部分的に引用する（注釈部分は全部ではない）。

[樽目録X]Y2662 * 玉虫縁
（美）安介坡著 碧羅（周作人）訳述

初我（丁祖蔭）潤辞

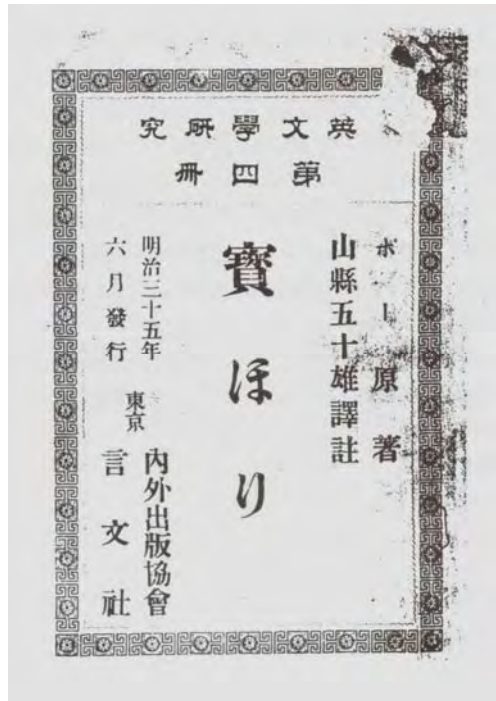
小説林社 光緒乙巳4(1905) / 丙午4(1906)再版

EDGAR ALLAN POE “THE GOLD-BUG” 1843. 山縣五十雄訳註『宝ほり』所収の英文を底本にして漢訳。「緒言」乙巳初春萍雲序於建業客次。「例言」「附識」乙巳上元訳竟識「附叙」乙巳暮春初我識於文明長寿室

周作人が、エドガー・アラン・ポーの「黄金虫」を漢訳した。

漢訳原書の表示を示す。「美国安介坡著 会稽 碧羅訳述 常熟 初我潤辞」である。

女性名碧羅は、周作人の筆名として現在はいく知られている。



底本は、山縣五十雄訳註『宝ほり』だ。

漢訳に際しもとづいたのは日本語か、と思われるかもしれない。そうではない。日本に留学するまえの周作人が学習したのは英語だった。この『宝ほり』は、日本人向けの英語学習書なのだ。英文を示して日本語訳をつける。それに

注釈をそえたもの。周作人は、日本語の注釈(の漢字)を参照しながら、英語原文にもとづいて漢訳した*37。

説明しておく。この山縣五十雄訳註『宝ほり』を目録において指摘しているのは、樽目録(第4版より)以外には、おそらくないだろう。

阿英目録118頁は、周作人訳『玉虫縁』を記録する。アラン・ポーを安侗と誤る。その漢訳のほうで、原音アランに近い。そう考えてもおかしくはない。だからその漢字なのだろう、と了解しそうになる。ところが、漢訳されたものと安介は、エドガー EDGAR に対応する。どのみち、安侗というのは誤記である。「碧羅訳。初我潤」は、そのまま。光緒乙巳(1905)とあるから初版本だ。

唐弢内部交流資料本は、該書の初版と再版の2冊を記載している。

[唐平2680](数字は統一番号)は、著者を安介と示し、訳者は不記、小説林「1905.5」(新暦旧暦混用だから「1905.4」でなければならない。誤植だろう)とする。つづく[唐平2681]も、同じく安介とあり訳者は不記、小説林「1906.4」再版だ。

私は、ここで刊年をあらわすのにわざわざ「」を使った。1905年は新暦であり、5月が旧暦であることを強調するためだ。あとで問題にする。

阿英目録と対照してすぐ気がつく。唐弢目録は、「碧羅訳。初我潤」をなぜか採録していない。

一方の『唐弢蔵書・図書総録』では、3カ所に出現する。

1 [唐書封30](封は表紙写真を、数字は頁数)には、表紙写真を色彩で見せている。

その説明短文が問題だ。上から順に次のとおり。

「《玉虫縁》/小説林社版/1908年2月初版/32開/碧荷館主人訳/長篇小説 共20回」
ざっとこうだ。



『唐弢蔵書・図書総録』より引用

1 初版というのに刊年が違う。1908年2月はどこから持ってきたのか。内部交流資料本によれば、「1905.5」だろう。もとなになっているのは同一版本であるにもかかわらず一致しない。どちらかが間違いとなる。

2 よくわからないのが、訳者名を碧荷館主人と記述するところだ。碧荷館主人は、周作人ではない。まったくの別人である。

どうやら碧荷館主人「新紀元」(1908.2)と混同したらしい。彩色された表紙をかかげながら、重要部分を誤記している。残念なことだ。

3 [唐書12]は、安介、碧羅と示す。そこまで書くのなら、初我をはずした理由が不明。小説林1905.5初版とするのは以前と同じ。

4 [唐書12]は、小説林1906.4二版だ。説明は上と同様である。

同一書籍のなかでも誤記がある。最後の点検が甘いということか。編者が異なれば、別の部分で間違いが生じる。実物があれば、それで正しく記述ができるというわけでは必ずしもない。

目録作成といっても、見た目ほど簡単ではないのだ。先行目録を写して終わり、というわけにはいかない。奥が深い、と私はいう。 罫

【注】

37) 樽本「ポー最初の漢訳小説 周作人訳『玉虫縁』について」『大阪経大論集』第52巻第5号(通巻第265号)2002.1.15、79-109頁。要旨：周作人が、南京の江南水師学堂で学生だったころ、ポーの「黄金虫」を漢訳したことがある。研究者は、この事実を指摘することはあるが、さらに一歩進めて、ポーの原作が何か、どのように漢訳しているかを追求してはいない。おそらく、原本の特定ができなかったのだろう。私は、本論文において、それらの謎を解明した。手掛かりは、周作人自身の回想文のなかにあった。つまり、兄の周樹人(魯迅)が留学先の東京から、英語の学習用に書籍を送ってきたことがあり、そのなかのひとつが、ポーの「黄金虫」だったのだ。調べれば、山縣五十雄訳註『英文学研究』に収録されている。原本を入手し、原文、注釈、漢訳の全部を比較対照した。その結果、周作人は、山縣の訳註を参照しながら英語にもとづいて漢訳している事実を明らかにすることができた。なお、本稿発表後に次の影印本を入手した。周作人訳『玉虫縁』(日本・中国近代文学研究会1997.11.30 中国近代文学研究会叢書 周作人関係資料 非売品)。これには山縣五十雄訳註『宝ほり』ほかも収録する。

漢訳ラム『シェイクスピア物語』の序 2
「区別がつかない論」再び

樽本照雄

9 『海外奇譚』のばあい

箇条書きになっている「叙例」4条の順番を入れ替え重要な部分から始める。原文を引用し解説する。



一是書原係詩體。經英儒蘭卜行以散文。定名曰 Tales From Shaksper 茲選譯其最佳者十章。命以今名。(後略)

本書はもとが詩の形式である。英国の学者ラムによって散文にされ、書名をつけて Tales From Shakspere という。ここにその最もすぐれた10章を選んで訳し、今の書名にする。(後略)

「一」は見出し。

「是書」すなわち本書とは何を指しているのか。『海外奇譚』の「叙例」だから説明は不要だろう。これを最初に把握しておけば、「叙例」の別の箇所も無理なく理解できる。

「是書(本書)」はもとが「詩体」すなわち詩の体裁である。詩の形式で書かれているのは莎劇だ。もとづいたのが莎劇(詩)であって「是書(本書)」は詩の形式ではないから小説である。

つづく説明が決め手になる。「英国の学者ラムによって散文にされ、書名をつけて Tales From Shakspere という」

「是書(本書)」は、ラムの『シェイクスピア物語』を指す。「叙例」なのだから底本について説明しているのは当然だ。「今の書名」が『海外奇譚』である。

「叙例」そのものが漢訳ラム本についての説明であると知るべきだ。しかも、ラム本が小説であり、もとになった莎劇は詩であると漢訳者は両者を区別し明確に理解している。

莎劇(詩)をもとにしてラムが改編(散文)しさらにそれを漢訳した。この一連の流れを説明したのがこの文章だ。当たり前のことが書いてあり疑問が生じる余地はない。

漢訳の底本がラム本、しかも英語書名を明記しているのは、当時の翻訳書としては珍しい。中国では底本に言及しない例が多いからそう思う。

シェイクスピアには Shakspere という綴りがあることはすでに述べた。

のちの研究者、たとえば前出の戈宝権は「叙例」を部分引用したとき、原文通りの英語綴りではなく Shakespeare に直している(334頁)。誤植だと考えるらしい。断わりなく書き換えてし

まっては、かえって不正確になることに気づいていない。

あるいは、『中国近代文学大系』第11集第28巻翻訳文学集三(上海書店1991.4. 317頁)に収録した「海外奇譚」の「叙例」全文も該当する2カ所を無断で書き直している。注をほどこすべき箇所だ。

誤りは中国の学界で蔓延している。ほかの研究者が間違っ て引用する例が続出する。孫引きですませるらしい。

瀬戸宏(2016)*¹⁷は、該書を中国北京・国家図書館所蔵本で見たという。だが、該当部分を引用して「Tale From Shak^{ママ}e spere」(83頁)と誤る。

確認する。漢訳者は上で「詩」と「散文」を対比させる。正しく把握している。これを何度も指摘するのは、この部分を見逃すと別の箇所の解釈を誤るからだ。

多くの研究者が、この重要な1条があることに言及しない。奇妙なことだと思う。無視しているのではなく、その存在を知らないのか。

この核心部分があることを知らない研究者は、「叙例」の説明を誤って解釈することになった。これから紹介する論文はほとんどがその要点をつかみそこなっているといわざるをえない。

10 ラム本とシェイクスピア

まず理解する必要があるのは、「叙例」全体がラム本について説明していることだ。ラム本との関係で副次的にシェイクスピアを紹介する。これが基本である。多くの研究者が引用するのは、次に引用する1条だ。これしかない、といった趣がある。

一是書為英国索士比亜 Shakspere 千五百六十四年生
千六百一十六年卒 所著。氏乃絶世名優。長於詩詞。其所編戲本小説。風靡一世。推為英国空前大家。訳者遍法德俄意。幾於無人不読。而吾国近今学界。言詩詞小説者。亦輒嘖嘖称索氏。然其書向未得読。僕竊恨之。因亟述是編。

冀為小説界上。増一異彩。

先に指摘しておく。鍵語は文中に見える「戯本小説」と「詩詞小説」だ。両者に「小説」がついているところに注目されたい。シェイクスピアが書いた小説は存在しない。書いたことがないからだ。しかもシェイクスピアのばあい「戯本」と「詩詞」は同じものだ。それらと「小説」を分離することはできない。「戯本小説」は戯曲小説だし、「詩詞小説」は莎劇(詩)小説だ。必然的に同一である。『シェイクスピア物語』にほかならない。ここを理解しない研究論文の多いことが、私を驚かせる。

冒頭の「本書は英国のシェイクスピアShakspeare 1564年生 / 1616年卒 が書いたものだ」に注目する(原文の割注は開いた)。留意してほしい。この部分には説明、あるいは補足が不可欠だ。訳者は前述のとおり、莎劇(詩)をラムが散文化したと書いて基本を理解している。

「叙例」の前提を忘れる、あるいは知らずに、さらには悪意をもってラム本(是書)はシェイクスピアが書いたと読む人がいる。それは違う。ラム本の底本は、シェイクスピア原著である。そのことを述べている。

「本書(『澗外奇譚』=ラム『シェイクスピア物語』)はもとをたどるとシェイクスピアが書いたものだ」

ラムの名前を省いただけ。ここを読み誤ると、奇妙な解釈が生じる。あとでいくつかの英訳をあげて述べる。

シェイクスピアの生卒年を注記しているのは、漢訳者が別の資料で見たのだろう。数字は正確である。シェイクスピアが俳優であったことは事実だ。詩詞、すなわち莎劇(詩)=脚本を書くことに優れている、もよい。

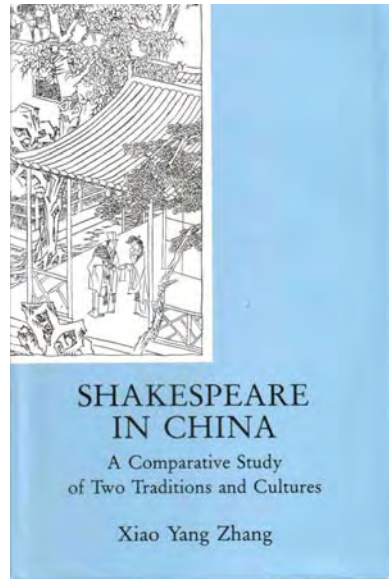
ラムが莎劇(詩)にもとづき改編した『シェイクスピア物語』、すなわち「戯本小説」が一世を風靡し、英国では空前の大家となった。翻訳は世界各国にあり、読まない人はほとんどい

なかった。そうつづく文章だ。

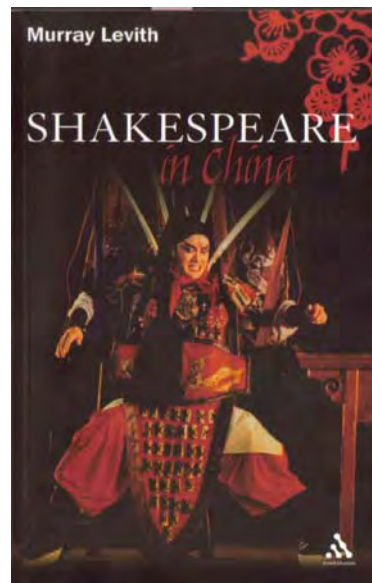
11 英語論文の訳例いくつか

中国の研究者は、原文のままを引いて示すだけのことが多い。基本的には現代漢語に翻訳しない。理解しているかどうかはわからない。しかし、英語論文では、それを翻訳して各人の理解度を示している。

主として3論文を紹介する。



張曉陽XIAO YANG ZHANG



MURRAY J. LEVITH



張曉陽XIAO YANG ZHANG (1996)*18、レヴィスMURRAY J. LEVITH (2006)*19の英語著作、およびサンYANNA SUN (2008)*20の英語論文である。それらの関連部分を適宜引用する。まとめて英訳しているから主としてここであつかう。部分的に訳している別の文章はそのつど示す。

【張曉陽】The book was written by the English writer Shakespeare. Shakespeare was an unrivaled dramatist in the world. He was good at writing poetry. His dramatic stories are very popular and he has been regarded as the world's greatest English writer.

本書は英国人作家シェイクスピアによって書かれた。シェイクスピアは世界で比類のない劇作家であった。彼は詩を書くのが得意だった。彼の劇的な物語はとても人気があり、彼は世界で最も偉大な英国作家だと見なされた。

「The book本書」とは、説明したとおりラム本を指す。ところが、張曉陽はそれがシェイクスピアによって書かれたとする。ここは注釈が必要であることはすでに述べた。だが、張曉陽はこの段落全体がシェイクスピアと彼の作品に

ついて述べたものだと理解している。彼の把握は大丈夫ではなさそうだ。

張曉陽は原文にある割り注「1564年生 / 1616年卒」を省略した。その理由は不明。

原文の「名優」はすぐれた俳優、役者だ。しかし、張曉陽の手にかかるとなぜか「dramatist劇作家」になっている。張曉陽の判断は奇妙である。

原文の「戯本小説」を「dramatic stories 劇的な物語」と英訳した箇所を見る。

「彼の」と修飾語をつけて「劇的な物語」だ。シェイクスピアが書いたと張曉陽は理解している。シェイクスピア作「劇的な物語」とは何か。意味がわからない。戯曲と物語では基本的な部分で異なる。漢語原文とは離れてしまった。

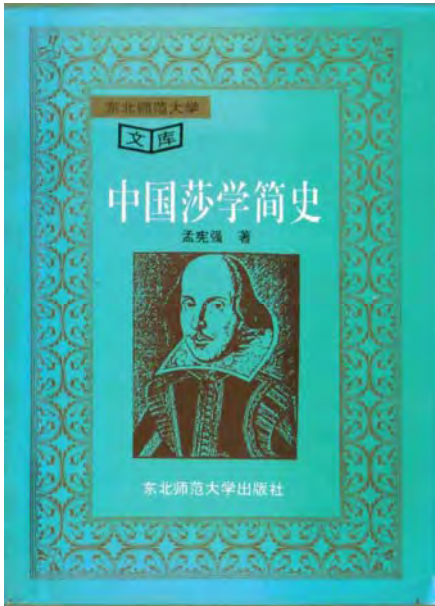
「叙例」がラム本についての説明であり、「戯本小説」がそれを指すことを理解していない。「叙例」の全体を見ていないのだろうかといぶかる。張曉陽にして理解度はその程度のものらしい。

時間的に遅れて出現した研究書も似たようなものになっている。

【レヴィス】He was a world-renowned actor, an accomplished poet, an extraordinarily popular playwright, and is considered a literary giant in England.

彼(シェイクスピア)は世界的に有名な俳優、熟達した詩人、特別に人気のある劇作家であって、英国において文豪だと考えられている。

レヴィスが利用した孟憲強(1994)*21は「叙例」を引用するが原文の一部分だけである。4条あるうちの最初の1条のみだ。ラム本を紹介した部分は引いていない。ほかの研究者と同じ。だから、レヴィスは何の予備知識も手がかりもなく冒頭の1条を翻訳することになった。それが躓く原因だ。



まず、レヴィスは孟憲強が示している冒頭の「是書為英国索士比亚(Shakespeare, 千五百六十四年生, 千六百一十六年卒)所著」という1文を無視した。シェイクスピアがラム本を書いたように読める。話がややこしくなると考えたからだろう。「其所編戯本小説」も省いた。それこそが重要な記述であるという認識がなかった。レヴィスにとって理解できない箇所は英訳しない方針らしい。自分が分かるように英訳したから、すっきりとまとまった。だが、原文に忠実ではない。なによりも、「叙例」がラム本についての説明であることを把握していない。

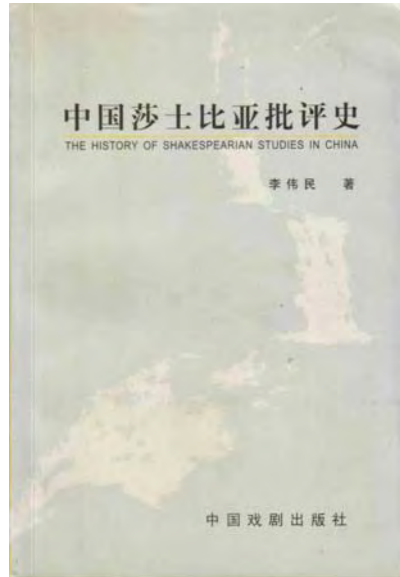
サンはどうか。

【サン】The book was written by the Englishman Shakespeare (1656-1616). He was extraordinarily good at poetry. His dramas became terribly fashionable and he was regarded as the greatest writer in England.

本書は英国人シェイクスピア(1656-1616)によって書かれた。彼は詩において特別にすばらしかった。彼の戯曲はとても流行し彼は英国最大の作家だと見なされた。

サンは李偉民(2006)*22の文章から引用する。

レヴィスと同じ箇所だ。ただし、李偉民は戈宝権から引用したと明記しているから曾孫引きになる。



シェイクスピアの生年である1564年を1656年と誤っているのは、基づいた李偉民の孫引きが「千五百六^マ年生」と誤植しているのを正したつもりらしい。それにしても没年よりも新しい生年になっていることをサンの指導教授たちは読んで指導しなかったのだろうか。

冒頭のThe bookについて理解が不足している。文章の表面をなぞって、ラム本がシェイクスピアによって書かれたことにした。注釈を加えなければならなかった箇所だ。

原文の「氏乃絶世名優」を省略した。「長於詩詞」を「詩において特別にすばらしかった」と英訳したが、「其所編戯本小説」の「戯本小説」を「彼の戯曲」だと強引に解釈した。該文で「戯本」と「小説」は分離不可能だ。それをサンは片方の戯曲だけを採用し小説を捨てた。恣意的な読み方だ。原文の意味を理解していない。

「叙例」がラム本についての説明であることを見失っている。というよりも、冒頭でシェイクスピアの原作にしてしまったから、どうしても戯曲にせざるをえない。そこで「小説」をな

いことにした。思い込みである。その結果「戯本小説」がラム本を指すことに気づけなかった。

問題は、結局のところ「叙例」に出てくる「其所編戯本小説」にいきつく。張曉陽はシェイクスピア作「劇的な物語」にして意味不明。レヴィスはシェイクスピアの作品に、サンも戯曲にした。三人とも原文の「小説」を握りつぶした。

「戯本小説」をふたつに分離させることはできない。事実として、シェイクスピアは戯曲を書いたが、小説は書いてはいないとくり返す。小説に書き換えたのはラムだ。

「其所編戯本小説」が意味するのは、「ラムが莎劇(詩)にもとづき改編した『シェイクスピア物語』」である。ラム本が一世を風靡し、それにもとない原作者のシェイクスピアは英国空前の大家になった、有名になったというわけ。ラム本は、フランス、ドイツ、ロシア、イタリアで翻訳された。

張曉陽はそこをどう訳したか。

【張曉陽】His works have been translated into many languages such as French, German, Russian, and Italian, and have been well received by numerous readers.

彼(シェイクスピア)の作品は多くの言語、たとえばフランス語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語に翻訳され、多くの読者に受け入れられた。

張曉陽は、「戯本小説」を「dramatic stories 劇的な物語」に解釈したことは述べた。これがラム本であることに気づかない。そこで「His works彼の作品」、すなわち莎劇(詩)が翻訳されて広まったと理解した。誤りだ。

レヴィスはそこをどう訳したか。

【レヴィス】His works have been translated into French, German, Russian, and Italian,

and are read by almost everyone.

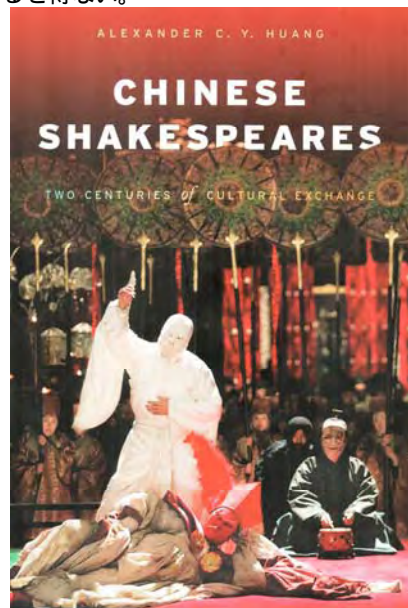
彼(シェイクスピア)の作品はフランス語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語に翻訳され、ほとんどの人々に読まれた。

レヴィスは「其所編戯本小説。風靡一世」の「其所編戯本小説」を省略した。肝心の「戯本小説」を無視し、一世を風靡したのは莎劇(詩)だと考えた。張曉陽と同じだ。主語をどうしても莎劇(詩)にしなければ気がすまない。

【サン】Shakespeare's works were welcomed by the reader in France, Germany, Russia and Italy.

シェイクスピアの作品は、フランス、ドイツ、ロシア、イタリアの読者によって歓迎された。

サンも「戯本小説」を莎劇(詩)だと断定した。サンにしてみれば文章の流れとしてはそうせざるを得ない。



ALEXANDER C. Y. HUANG

フアングALEXANDER C. Y. HUANG(2009)*23は「叙例」の一部分を、しかも別の場所に分けて引用している。「/」を使用し連結してここ

に示す。

【フアング】Shakespeare is the finest poet in the world. His plays and fiction sweep the world like wind and are immensely popular. / Shakespeare's works have been available in French, German, Russian, and Italian.

シェイクスピアは世界で最高の詩人だ。彼の芝居と小説は風のように世界に吹き渡り、非常に人気がある。/シェイクスピアの作品は、フランス語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語で入手が可能だ。

フアングの英訳は、原文の「長於詩詞。其所編戯本小説。風靡一世。推為英国空前大家。訳者遍法德俄意。幾於無人不読」あたりに基づき、分けて英訳したらしい。逐語訳ではないからそう推測する。

問題はやはり「戯本小説」になる。「plays and fiction芝居と小説」にしてしまった。「芝居」はいい。シェイクスピアの「小説」とは何だろうか。ありえない。それとも、漢訳者の無知にするつもりか。そうならば説明する必要がある。だが、その説明はない。『瀕外奇譚』がラム本の漢訳であることを忘れている。「戯本小説」はラムの『シェイクスピア物語』なのだ。

瀬戸博士も同じ誤りを犯している。

【瀬戸博士】氏は絶世の名優であり、詩詞に長じていた。その編んだ戯曲小説は一世を風靡し、英国空前の大家とされた。96頁

ここを説明して「シェイクスピアが絶世の名優であったかは異論があろうし、シェイクスピアが小説を書いたというのも誤解である」と書く。「叙例」がラム『シェイクスピア物語』を説明していることを考慮しない。だからここに出てきた「戯曲小説」をシェイクスピアの「小説」だと誤解して恥じるところがない。瀬戸博

士は自らの無知を「叙例」の執筆者に押しつけて間違っている。

つづいて「叙例」の話題は、当時の中国學術教育界になる。

再度示す。

而吾国近今学界。言詩詞小説者。亦輒嘖嘖称索氏。然其書向未得読。僕竊恨之。因亟訳述是編。冀為小説界上。増一異彩。

わが国の現代學術教育界において「詩詞小説」を話題にするものは、シェイクスピア氏をしきりに称賛する。だが、その書はいまだに読むことができない。そこで急いで本書を訳述した。小説界で異彩を放つことを願う。

「詩詞小説」を原文のままにしたのは、理解の分岐点になるからだ。

ここでも重点は小説にある。前の「戯本小説」をここでは「詩詞小説」に置き換えた。「戯本」と「詩詞」はシェイクスピアについていえば同じものだ。「莎劇(詩)にもとづいた小説」だからラム本、すなわち『シェイクスピア物語』を指す。「莎劇小説」あるいは「莎詩紀事」としてもいい。ラム本を話題にして、その原著者シェイクスピアを褒め称える。

話題にしているラム本とは英語原文だ。当時、英語を理解する一部の中国人がラム本にもとづいてシェイクスピアを称賛した。普通にありそうなことだし、事実そうだった。英語のラム本が中国でも知識人に読まれていたとわかる。

「だが、その書はいまだに読むことができない」の「その書(其書)」とは何か。莎劇(詩)ではない。なぜなら、読むことができないから漢訳して出てきたのは底本がラム本なのだ。一般人が読むことができない英文ラム本を漢訳したから「小説界で異彩を放つことを願う」。主体はあくまでも小説のラム本である。「叙例」は小説を基本に置いた筋の通った説明になって

いる。

張曉陽は、この箇所どのように解釈しているのだろうか。「叙例」がラム本についての解説であることを思い出すだろうか。

【張曉陽】As for the academic and literary circles in our country, there are also many poetic and fictional critics who highly praise Shakespeare. But it is a pity that we have not read his works before now.

わが国の学術文学界については、シェイクスピアを称賛する多くの詩と小説の評論家もいる。しかし、残念ながら我々はいままで彼の作品を読んではいない。

「言詩詞小説者」を「詩のpoetic」と「小説のfictional」に分離し評論家に解釈した。張曉陽は、これが鍵語であることに気づいていない。「戯本小説」と「詩詞小説」は同じくラム本を意味しているのだ。要点を把握していないから、全体を莎劇(詩)についての説明にしてしまった。

「彼の作品を読んではいない」の主語を「我々we」にしたのはやりすぎ。「叙例」を書いた漢訳者もその仲間に入れてしまった。ラム本も出てこない。奇妙だろう。漢訳者も含めて当時の中国の知識人はシェイクスピア作品をひとつも読まず、ただシェイクスピアの名前だけをかかげて称賛していることになる。張曉陽は、中国の知識人をそれほど貶めている。

レヴィスはどうか。

【レヴィス】Our own contemporary literati who specialize in writing verse and fiction have also joined the chorus in his praise *without even having had the opportunity to read his work* [italics mine!].

詩と小説を書くことを専門にしている現在の文学者は、彼(シェイクスピア)の作品を読む機会すら持つことなく彼を称賛す

る合唱に参加してもいる。(注:イタリック体はレヴィス。日訳ではゴチック体にした)

原語の「言詩詞小説者」を「詩詞verse」と「小説fiction」に分離し「言」を実作するに解釈した。この英訳文も理解しがたい。

レヴィスの訳文にもラム本が出てこないから問題が発生する。ラム本も読まず、莎劇(詩)も知らない中国の知識人がシェイクスピアを賛美した。張曉陽と同じだ。何も読まずに称賛するということに奇妙さを感じたのだろう。だからこそレヴィスはイタリック体を使用して自分の驚きを強調した。

くり返すが、それでは中国の知識人はシェイクスピアの名前を聞きかじっただけで彼のことを称賛したことになる。ありえないと思う。話題にするからには何かを読んでいると考えるのが普通ではないか。レヴィスは漢訳「叙例」に書いてあるラム本(戯本小説、詩詞小説)の存在を無視している。自分が理解していないにもかかわらず、当時の中国の知識人をひどく侮り貶めている。私はここにも強い違和感を抱く。

サンはどうか。

【サン】In contrast to the situation in European countries, none of the Chinese people has ever really read his works, although later on, in particular the intellectual classes sang high praise of Shakespeare when talking about poetry and novels.

ヨーロッパ各国の状況とは対照的に中国人はだれも彼の作品を本当に読んだことがなかった。しかし、のちに特別な知識階層において詩と小説について話すときシェイクスピアを絶賛した。

サンも原文の「言詩詞小説者」を「詩詞verse」と「小説fiction」に分離した。莎劇(詩)はいざ

知らず、ラム本も読まずにシェイクスピアを絶賛するだろうか、と同じいい方になる。

【フアング】Without even having read his works, Chinese intellectuals have praised him.

彼(シェイクスピア)の作品を読むことなく、中国の知識人は彼を称賛した。

中国の知識人がシェイクスピアの作品そのものを読まずとも、ラム本は読んだとは想像もしていない。だいいちフアングは同一著作の別の箇所(69頁)で、1900年聖約翰大学においてシェイクスピア倶楽部が設立され週末に莎劇を読んでいたと説明しているのではないか。自分で書きながら、忘れてしまったのだろうか。知識人の一部は実際に莎劇を読んでいたし、そうならばラム本はもっと普及していたと考えてもいいところだ。

フアングも、張曉陽、レヴィス、サンらと同じく中国の知識階層をひどく侮蔑しているとは思えない。

【張曉陽】Therefore I have translated his works into Chinese and offer it to our readers. In the meantime, it will be added to our literary circles as a wonder with radiant splendor.

そこで私は彼の作品を漢語に翻訳し読者に提供する。とりあえず、わが文学界に輝かしい不思議さがあたえられるであろう。

シェイクスピアの作品を漢語に翻訳した、と書きながら自分で論理の整合性が失われていると感じなかったのだろうか。実際に漢訳され目の前にあるのは莎劇(詩)ではなくラム本の『シェイクスピア物語』なのだ。張曉陽は、詩と小説の区別をつけていない。

【レヴィス】To remedy this unfortunate

situation, I have undertaken this translation with the hope that it will add color and splendor to the world of fiction (quoted in Meng, *Survey*: 6).

この残念な状況を改善するために、小説の世界に色彩と輝きを加えることを希望して私はこの翻訳に着手したのだった(孟からの引用)。

莎劇(詩)が翻訳されていないからもとのままの脚本の形で漢訳した。そうであれば説明の論理が首尾一貫する。だが、出てきたのが小説のラム本では話の筋が通らない。レヴィスの英訳を見れば、莎劇(詩)そのものを中心に述べていたのに、最後になって「小説の世界」が突然、出現する。莎劇(詩)と小説世界は別物であることを知らない。詩と小説の「区別がつかない」らしい。

【サン】Consequently, I earnestly translated the book, hoping to bring new splendour to the circle of fiction.

そこで小説界に新しい輝きをもたらすことを希望してこの本を熱心に翻訳したのだ。

サンも張曉陽、レヴィスと同様だ。もっぱらシェイクスピアの戯曲、別の表現では莎劇(詩)について説明していた。最後になって小説界が取って付けたように出てくるのはどう見ても奇妙だ。ラム本との関連でシェイクスピアが少し説明される「叙例」の基本を知らない。サンもその区別がついていないのである。

【フアング】It is my hope that my translation will remedy the unfortunate situation and enrich the world of fiction.

私の翻訳が不幸な状況を改善し、小説の世界を豊かにするのが私の希望である。

漢訳したのはシェイクスピア原作をラムが改編した『シェイクスピア物語』である。だからこそ「小説の世界を豊かにする」とつながる。それまでに説明していたのが莎劇では全体の統一がとれない。「叙例」の基本的説明がラム本についてのものであることを知らないからそうなる。

漢訳者のもとの説明、すなわち「叙例」全体を見るべきだった。『瀛外奇譚』の訳者は、莎劇(詩)とラム本(散文)の関係を正しく把握しているとわかったはずだ。張曉陽は原書から引用していると明記している(259頁注15)。だが、この基本を理解していない。全文を読んでもそうなのか、と不可解さが増す。

レヴィスとフアングは孟憲強が、サンは李偉民が引用していない箇所を全文を読もうと思えばできないことではなかったはずだ。彼らが論文を書く前に『中国近代文学大系』第11集第28巻翻訳文学集三(上海書店1991)が刊行されていることを言っている。結果として、原文を読まず孫引き、曾孫引きすることの恐ろしさを私たちに教えてくれる。

わかりきったことをなぜ説明するのか、と思われる人もいるだろう。

ひとつは、張曉陽、レヴィス、サン、フアングのように誤解する研究者がいるからだ。もうひとつは、鄭振鐸の評言、すなわち林紘は小説と戯曲の「区別がつかない論」をいまだに信奉する人がいるためだ。それを『瀛外奇譚』の訳者にも当てはめるかもしれない。上の英文論文は事実そうしている。

現代の中国人研究者が「叙例」を現代漢語に翻訳している例を紹介しよう。李偉明(2011)*²⁴である。

李偉明は、次のように説明する。『瀛外奇譚』の訳者は、シェイクスピアを伝奇作家、あるいは伝奇小説家だというのだ。これには驚く。彼は、葛桂録『中英文学関係編年史』に収録された「叙例」を孫引き要約して以下のように訳し

た。李の要約原文を引用する。

莎士比亚是海外一位擅長構思奇譚故事的作家，不僅編寫劇本，而且創作小說，因國人從未讀過他的作品，所以他要紹介莎士比亚，給中国作家的創作“增一異彩”，提供借鑑。152頁

シェイクスピアは奇怪物語を構想するのがうまい海外の作家である。戯曲を編纂するばかりか小説も創作する。わが国の人々は彼シェイクスピアの作品を読んだことがないため、彼(漢訳者)はシェイクスピアを翻訳紹介し中国の作家が創作するのに「異彩を増す」手本を提供しようとした。

「叙例」の要約であるにもかかわらず、漢訳者本人について漢語「他」を使い李偉明の視点を混入させている。奇妙だ。原文は「僕」だから現代漢語の「我」にすべきだ。

李偉明による以上の要約は、あくまでもシェイクスピアとその作品についての説明だとする。しかし、「而且創作小説(小説も創作する)」という箇所を漢訳しながら李偉明は自分でおかしいと思わなかったのだろうか。シェイクスピアが小説を書いたなどは、専門家が書く文章ではない。それを含めて漢訳者が無知であるといいたいのか。それこそ濡れ衣だ。なによりも「叙例」では「是書原係詩体(本書はもとの詩の形式である)」と明確に説明しているではないか。それを読まなかったのだろうか。

ラム本(もとはシェイクスピアの作品)には幽霊、妖精などが出現するから角書に「神怪小説」とつけたりする。伝奇作家というのは、そこからあたりからの発想だ。

李偉明がよった葛桂録本(127-128頁)に引用された原文を示す。[]で括ったのは「叙例」初出にあっても葛桂録が削除した箇所だ。波線をほどこし李偉明が要約した部分を推測する。

[一是書為英國索士比亞 Shaksperc<sup>千五百六十四年生
千六百一十六年卒</sup> 所著。] 氏乃絕世名優，長於詩詞。其所編戲本小説，風靡一世，推為英國空前大家，訳者遍法、德、俄、意，幾於無人不読，而吾国近今学界，言詩詞小説者，亦輒嘖嘖称索氏，然其書向未得読，僕竊恨之，因亟訳述是編，冀為小説界上，增一異彩。

波線部分を見ると「叙例」の一部分を李偉昉が適当に選択してつなぎ合わせたことがわかる。

根本問題は、「叙例」がラム本の説明であることを李偉昉が知らない、あるいは忘れていることだ。ゆえに、ここでも鍵語である「戯本小説」を分解して戯曲と小説（不僅編写劇本，而且創作小説）にしてしまった。ラム本そのものを指していることに気づかない。あとの誤解も、そのほかの研究者と変わらない。シェイクスピアを翻訳するといいいながら、ラム本になったことが見えないのである。

「英国索士比亞 Shaksperc...所著」「其所編戯本小説」「言詩詞小説者」を無意識に、あるいは意識的に誤読する可能性がある。後の研究者は、当時の知識人を頭から軽視しているからシェイクスピアが小説を書いたことにして平気なのだ。

具体例は上を見られたい。シェイクスピアがラム本を書いたとしているのは誤りだ、と言い出しかねない。シェイクスピアとラムの関係について漢訳者が何も知らないことにしたいのだ。当時の中国の知識人が無知であり劣っていると貶めたいのである。そういう考えを植え付けたのは、もとをたどれば1910年代に林紓を批判した劉半農ら文学革命派であった。現代の欧米にも彼らの影響が及んでいるといわざるをえない。知識がないのは、そう誤解する人たちの方であることがわかるだろう。「叙例」そのものが証明している。

ひとつ。現代のウェブ社会において検索すれば孫引き、曾孫引きする文献まで出てくる。

あえて紹介したのは、現代における研究水準を知る材料になるかもしれないと考えるからだ。

【注】

- 17) 瀬戸宏 『中国のシェイクスピア』 松本工房 2016.2.29
- 18) 張曉陽XIAO YANG ZHANG, *SHAKESPEARE IN CHINA : A COMPARATIVE STUDY OF TWO TRADITIONS AND CULTURES*. NEWARK: UNIVERSITY OF DELAWARE PRESS; LONDON: ASSOCIATED UNIVERSITY PRESSES, INC. 1996. 前出張泗洋は父親らしい。
- 19) MURRAY J. LEVITH, *SHAKESPEARE IN CHINA*. NY: CONTINUUM, 2004 / 2006. p. 4. 6頁であいかかわらず「リチャード2世」などを不完全なかたちで翻訳したと説明して間違っている。But even then China's encounter with Shakespeare's plots was still obviously incomplete.
- 20) YANNA SUN, *SHAKESPEARE IN CHINA*. DRESDEN: 2008.4 電字版。別の読み方があるのかもしれないが、本稿では姓をサンと読んでおく。17頁であいかかわらず「ジュリアス・シーザー」などを脚本ではなく小説に翻訳したと書いて間違っている。Unfortunately, he translated these plays once again in classical Chinese prose instead of the form of drama.
- 21) 孟憲強 『中国莎学簡史』 長春・東北師範大学出版社1994.8. 8頁
- 22) 李偉民 『中国莎士比亞批評史』 北京・中国戯劇出版社2006.6. 308-309頁
- 23) ALEXANDER C. Y. HUANG, *CHINESE SHAKESPEARES: TWO CENTURIES OF CULTURAL EXCHANGE*. COLUMBIA UNIVERSITY PRESS, 2009. 注7で紹介した。51、71頁。
- 24) 李偉昉 「接受与流变：莎士比亞在近現代中国」 『中国社会科学』 2011年第5期 2011.9.10

漢訳『奇獄』の謎 4完

結論検証篇(下)

沢本香子

「銀柄斧案」のばあい

ドイルの初期作品については、彼自身がその苦い思い出を書き残している。雑誌に作品を発表したとき、原稿は買い取りだったらしい。

編集者が、いくつかの作品をまとめたものに単行本として発行した。『謎と冒険 *Mysteries and Adventures*』(1889)である。イギリス版は7作品を収録。大陸(ライプチヒ)版とアメリカ版は5作品を加えて全12作品だ。漢訳の2作品はそのどちらにも収録されている。

ドイルに無断で作品集が刊行されたから印税はまったく支払われなかった。ドイルの回想文を日訳から引用する。

「第6章 開業の経験」

この時分に相当数の短編を「ロンドン・ソサエティ」という雑誌に寄稿した。いまは廃刊になったが、当時はホグ氏の編集で栄えていたものである。一八八二年の四月号に「ボーンズ」というのを発表した。今はありがたいことに忘れられている。これに先だつクリスマス号には「ガリ・オブ・ブルーマンスダイク」というのを発表している。いずれもブレット・ハートへのささやかなる共鳴である。これらとさきに述べた短編とが、この時代の私の全作品である。私はホグ氏に手紙を送って自分の現状を説明し、クリスマス号用として「人を殺した友人」という短編を送った。すると

親切な返事があって十ポンド送ってきたから、これは家賃の第一期分としてそっとしておくことにした。しかし後年にはこの人のことをよく思わないようになった。これらの短編の版權は完全に自分のものだと称して、私の名前を冠して一冊の本としたのである。若い作家よ、用心しないと君の最悪の敵は、君自身の若いころにあったということになりませうぞ! 79-80頁*10

THE SILVER HATCHET.

On the 3rd of December 1861 Dr. Otto von Hopstein, Regius Professor of Comparative Anatomy of the University of Buda-Pesth, and Curator of the Academic Museum, was foully and brutally murdered within a stone-throw of the entrance to the college quadrangle.

Besides the eminent position of the victim and his popularity amongst both students and town-folk, there were other circumstances which excited public interest very strongly, and drew general attention throughout Austria and Hungary to this murder. The Professor *Arendt* of the following day had an article upon it, which may still be consulted by the curious, and from which I translate a few passages giving a succinct account of the circumstances under which the crime was committed, and the peculiar features in the case which puzzled the Hungarian police.

It appears, said that very excellent paper, that Professor von Hopstein left the University about half-past four in the afternoon, in order to meet the train which is due from Vienna at three minutes after five. He was accompanied by his old and dear friend, Herr Wilhelm Schlessinger, sub-Curator of the Museum and Privat-docent of Chemistry. The object of these two gentlemen in meeting this particular train was to receive the legacy bequeathed by Graf von Schalling to the University of Buda-Pesth. It is well known that this unfortunate nobleman, whose tragic fate is still fresh in the recollection of the public, left his unique collection of mediæval weapons, as well as several priceless black-letter editions, to enrich the already celebrated museum of his Alma Mater. The worthy Professor was too much of an enthusiast in such matters to intrust the reception or care of this valuable legacy to any subordinate, and, with the assistance of Herr Schlessinger, he succeeded in removing the whole collection from the train, and stowing it away in a light cart which had been sent by the University authorities. Most of the books and more fragile articles were packed in cases of pine-wood, but many of the weapons were simply done round with straw, so that considerable labour was involved in moving them all. The Professor was so nervous, however, lest any of them should be injured that he refused to allow any of the railway employes (*Eisenbahn-diener*) to assist. Every article was carried across the platform by Herr Schlessinger, and handed to Professor von Hopstein in the cart, who packed it away. When everything was in the two gentlemen, still faithful to their charge, drove back to the University, the Professor being in excellent spirits, and not a little proud of the physical exertion which he had shown himself capable of. He made some joking allusion to Reinmann, the janitor, who, with his friend Schiffer, a Bohemian Jew, met the cart on its return, and unloaded the contents. Leaving his curiosity safe in the store-room and locking the door, the Professor handed the key to his



THE SILVER HATCHET.
The Old Story

さて、華子才訳「銀柄斧案」(“The Silver Hatchet” “London Society” 1883.12 Christmas Edition)である。

内容は、銀の柄をもつ斧が殺人事件を引き起こすという怪奇譚だ。短篇小説ながら登場人物が多い。ハンガリーのブタペストが小説の舞台だから人名がややこしい。華子才漢訳とは関係なくこちらにも抱一庵日記*11がある。

登場人物の名前だけを対照表にする。ドイル原文に駒月日記*12を添え、抱一庵日記(参考までに)、華子才漢訳(傍線は省略)の順にならべる。

Dr. Otto von Hopstein オットー・フォン・ホプシュタイン教授

ドクトル甫風斯顿(ホプストン)
欧奉哈賓

Herr Wilhelm Schlesinger ヴィルヘルム・シュレシンガー氏

ウ井ルヘルム蘇列士(スレス)
漢韋斯雷(Herr = 氏を漢と誤る)

Graf von Shulling フォン・シュリング伯爵
グラツフ、斯加留倫(スカルリング 伯爵をグラツフとする)

利達斯顿(Graf = 伯爵を利と誤る)

Reinmaul ラインマウル

礼毛(レーモル)
理没耳

Schiffer シッファ

知留巴(チルハ)
司格弗(読みを誤る)

Jäger 狙撃兵

チヤガー(人名と勘違いする)
傑迦(人名と勘違いする)

Dr. Langemann ランゲマン博士

レンケマン(ドクトル、ランゲマン)
医士蘭曼

Gruga グルーガ(未亡人)

虞可(グラカ)
×

De Quincey トマス・ド・クインシー

デ、クエンシー
×

Otto von Schlegel オットー・フォン・シュレーゲル

オット、ボン、智狛児(チゲール 注: 狛は狼では

ないか)

奥達士格

Leopold Strauss レオポルト・シュトラウス

レオポルト

雷夏斯屈

St. Gregory's church 聖グレゴリウス教会

聖(セント)グレゴリー

礼拝堂

Graube グラウベ

×

辯劣仏

the Swabian シュヴァーベン(地名)人

×

思章皮(人名と勘違いする)

Baumgarten バウムガルテン

バーガーデン

培加徳

Winkel ヴィンケル

ウ井ンケル

韋格而

Max von Erlichingen マックス・フォン・エアリヒンゲン

マックス、ボン、アーリンチンゲン

美達安林

Joanna Bodeck ヨアンナ・ボデック

ジヨアンナ、ボデク

喬那鮑但克(別の場所では約翰鮑但克)

一見して華子才の誤解が目立つ。

題名にもなっている「銀の斧」について、抱一庵と華子才はそれぞれ理解が少し異なる。

【ドイル】an antique hatchet, with a head of steel and a handle of chased silver p.90

鋼鉄の刃と打ちだし模様の銀の握りがついた斧 138頁

【抱一庵】銀の把に赤銅の鑄ある中世時代の祭神用の杖なり 91頁

【華子才】為一古時代之鋼斧。其柄用銀製。53頁

古代の鋼鉄の斧で、その柄は銀でできている。

抱一庵が「祭神用の杖」と訳したのは不適切

だろう。ここは華子才の方がドイル原文に近い。斧についてももう1カ所を紹介する。

【ドイル】a small glistening battle-axe,
made apparently entirely of metal pp.91-92

金属特有のぎらついた光を放つ小さな戦斧 138頁

「小さなsmall」と形容詞がついているのにご注意いただきたい。それでなくても鉄製の斧だから、大小はあっても杖ではない。抱一庵は奇妙な訳にしている。華子才は英文から直接漢訳したから、日訳とは関係がない。あくまでも参考のために引用している。

【抱一庵】銀色晃々たる斧ともつかず、剣ともつかず、また杖とも云ひ難き一種異様の凶器 93頁

原文に斧と書いてあるのを異形の凶器にしまったのは、いかがなものか。

【華子才】一銀柄鋼斧 53頁
銀の柄のついた鋼の斧

こちらの漢訳が原文にほぼ忠実である。呪いの斧だ。柄に毒薬が仕込んであったという一応の解説はある。結局のところ、斧に触れた人は殺人を犯してしまうという怪奇譚だ。

裁判後、銀の斧の破片はブードル犬に運ばせて沼に投げ込まれた。抱一庵は、沼ではなく「古井戸に投げ入れ其井戸は直に埋めぬ」(110頁)にした。華子才は、そこを漢訳していない。

華子才の勘違いは、たしかにある。だが、登場人物の名前が原文とは少し違っているようだが、ウィーンから来る列車をウィーンへ行かせようが(47、52頁)、当時の中国人読者は気にしなかっただろう。物語の大筋にそれほど関係はない。

ついでながら、抱一庵も同じだ。彼は、街のうわさでボクシングが出てくる箇所を決闘事件に書き換えている(90頁)。チーゲルは肺科、レオポルドは脳病科(89頁)に指定する。「殺害」を「毒殺」に書き換え、しかも「杖を以て

毒殺すとは語を為さず、故あることなるべし」(102頁)と無用の注をつける。あとは略す。これらの細かな加筆は「無政府党と一夜」と同様である*13。

華子才が「虚無党之秘密会」の途中でネタをばらしていたのに比較すれば、こちらの「銀柄斧案」はよほどましだ。

どちらにせよ、ドイルの単行本『謎と冒険』とは無関係ということらしい。

残るふたつの漢訳については、原作が不明だ。内容を簡単に紹介するにとどめる。

「亜門特被殺案」

殺害された人物の名前が、亨利・亜門特である。生首にある金歯1本を手がかりに身元を割り出す。不仲な弟が兄の亨利と財産および女性を争い殺意を抱く。実際に殺したのは弟の友人である孛斯敦医師である。それを明らかにしたのが台惟特・亭亨而(David Temple?)探偵だった。

「假死竊産案」

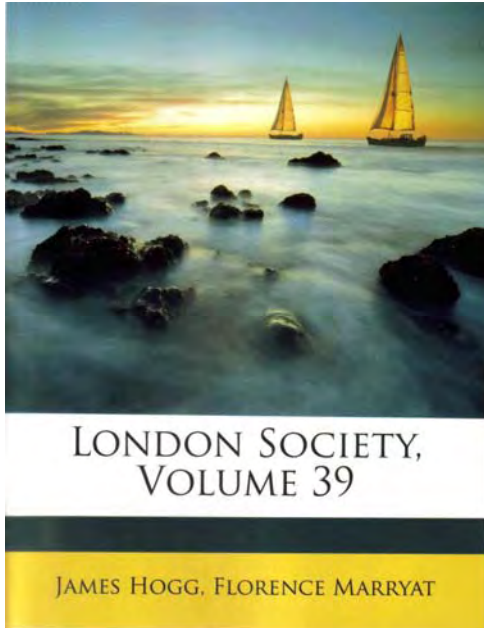
約翰・落忒は父に先立たれ、母が培根に嫁いだ。培根は、のちに生まれた実子約書亜よりも義理の息子をかかわがる。約書亜はぐれて監獄へ。きまじめな約翰は、刑期を終えるだろう義理の弟のために財産を残そうと努力するが失敗。約書亜は受け継ぐべき財産がなくなったことを知り約翰に殺意を抱く。約翰は名前と住所を変えて銀行員になって身を潜めた。電報があり約書亜が病死したのでそれを確認して引き取れという。死を装ってまで親戚の遺産を盗もうとする事件を称して上記の題名になる。こちらにも亭亨而探偵が出てくるが活躍はしない。副次的な役割しか与えられていない。

2作品に共通するのは、亭亨而探偵だ。同じ探偵だからシリーズものだと想像できる。私の知識が乏しく、誰が書いたという連作なのかはわからない。ご教示いただけるとうれしい。

『奇獄二』には原作者の名前がない。ドイルの2作品は、今でこそ有名だから原作者を明記することができる。雑誌『ロンドン・ソサイエティ』には、もともとドイルの名前はないのだ

った。ここから、華子才は初出雑誌から漢訳しただろうと理解できる。

『奇獄二』に収録された4作品は、もしかすると『ロンドン・ソサイエティ』掲載のものを底本にして漢訳したのかもしれない。そう考えて『ロンドン・ソサイエティ』第39巻の影印本を取り寄せた。



第39巻といっても前半の6月までしか収録してなかった。それらに亭亭而探偵が登場する作品を見つけることはできなかった。調査を継続する。 ㊦

【注】

10) コナン・ドイル著、延原謙訳『わが思い出と冒険 コナン・ドイル自伝』新潮文庫1965.8.5初版未見 / 1994.3.15六刷。割注は省略。もうひとつ引用する。「訳者あとがき」笹野史隆訳コナン・ドイル全集第7巻『ポールスター号の船長 下』エミルオン2005.10.31から。「『ポールスター号の船長』はドイルが認める初めての短編集であるが、実はこの短編集と同年同月にドイルが出版に関与しない短編集が世に出た。十二編が収録された『謎と冒険』である。ドイルはジェームズ・ホッグが編集長を務めるロンドン・ソサイエティに一八八〇年の「アメリカ人の話」から一八八五年の「イライアス・B・ホプキンス」まで計十一編の短編を発表した。しかし、ド

イルの初期の短編の多くは制約無しで雑誌社に売られていた。そういうわけで『マイカー・クラーク』が成功すると、ホッグはそういう短編をロンドンのウォルター・スコット社に合法的に売り、『謎と冒険』が出版された。これは題名と収録作品と出版社を変えて次々と出版された。ドイルは短編集『ポールスター号の船長』と競合するので、激怒し、抗議したが、ホッグの行為は違法でなく、ドイルとしてはどうしようもなかった。ドイルは晩年に書いた自伝『回想と冒険』でもこのことを悔しがり、若い作家に警告を発している」152頁

笹野史隆の指摘があるので次も引用。リチャード・ランズリン・グリーン、ジョン・マイケル・ギブソン「序」コナン・ドイル著、小池滋監訳『サッサ谷の怪』コナン・ドイル未紹介作品集 中央公論社1982.11.30から。「ドイル自身が一八八五年十一月に、十八の短篇を集めた本を出そうと出版社を探していた。表題は『光と影』にするつもりだったが、ロングマン社が引き受けてくれたのは『マイカー・クラーク』が一八八九年に大当たりをとった後で、一八九〇年に『ポールスター号の船長』という短篇集で出た。ところがこの本が出る前に、ウォルター・スコット社が『怪奇と冒険』と題する短篇集を出したが、これはホッグが編集したものであった。ドイルは激怒したが、法的には文句のつけようがない。彼はバーミンガム市のある新聞の編集者に次のような手紙を書いている。 / 『怪奇と冒険』は何年も前に『ロンドン・ソサイエティ』に書いた短篇を無断で刊行した海賊版です。中にはほんの子供の時の作品もあります。僕の若書さがこんな金儲けのために再刊されるのは、ひどい話ですが、法に訴えることはできないのです。 / この短篇集は評判がよく、シャーロック・ホームズのお陰でドイルの名が読者におなじみになるや、表題を『ブルーマンズダイクの溝』と変えて何千部と売れた。 / ジェイムズ・ホッグはイギリス版だけでは満足できず、一八九三年の暮に、同じ短篇集に『ロンドン・ソサイエティ』に載った三篇と彼の処女作とをさらにつけ加え、『わが友、殺人者』という題でニューヨークのラヴェル・アンド・コリエル社から刊行したのをドイルは知った。彼はすぐにニューヨークの『クリティッ

ク』誌に抗議の手紙を寄せたが、出版社の方からは「一八九二年十一月に、ドイル博士の代理であるジェイムズ・ホッグ氏に二十五ポンド支払って買い取ったものです」という説明があった。彼としてはホッグと絶縁するしか手はなかった。何年も後になって彼は、このことについてこう書いている。「若い作家諸君、気をつけたまえ。さもないと昔の自分自身が不倶戴天の仇敵になりますよ」」10-11頁

- 11) ドイル作、抱一庵主人訳「稀有の裁判」『小説泰西奇文』(知新館1903.9.10。81-111頁)
- 12) 駒月雅子訳「銀の斧」アーサー・コナン・ドイル著、北原尚彦、西崎憲編『ドイル傑作選』翔泳社2000.2.10
- 13) 抱一庵日訳の単行本にはまとまった文章が前後する印刷間違いが2カ所ある。私が見ているのは国会図書館所蔵本(複写)だ。誰かの手書きで101頁の1カ所に「次の2頁十一行目へつづく」と書きつけてある。その通り103-104頁にゴッソリ移動している。もうひとつは103頁に「次頁十二行目へつづく」と示す。ここの7行は、前の101頁にあるべきもの。

【参考】

ウェブサイト THE CONAN DOYLE ENCYCLOPEDIA
 ジャック・トレイシー著、日暮雅通訳『シャーロック・ホームズ大百科事典』河出書房新社2002.12.30
 ウェブサイト 関矢悦子『コナン・ドイルの初期作品の研究』(1879年～1893年) 「ササッサ谷からライヘンバッハの滝までの小説」の原題と邦題及び内容紹介 最終更新2015.10.10
 RICHARD LANCELYN GREEN AND JOHN MICHAEL GIBSON“A BIBLIOGRAPHY OF A. CONAN DOYLE” HUDSON HOUSE, 2000

也说林译伊索寓言的原本何在

苏建新

世界科学史上的发现往往具有偶然性。比如X光透视或镭元素，不是伦琴、居里夫人在先公布自己的discovery，就是其他后来者的侥幸碰到并公诸于世。曾经存在的东西，或早或迟，都会被后人找到，只要经过对比的参照。

社会学、文学艺术等人文学科上的研究，好像也有类似的情况。美国康普敦 Compton 博士的林纾翻译研究，马泰来先生肯定他的主要成绩，说有几个林译小说的底本被他最早发现。这是可以载入史册的盛事了。

中国近代影响深远的林译小说，因为数量多，历来都吸引了不少海内外的学者尤其是年青人才的高度重视。过去在“五·四”年代前，刘半农与钱玄同导演的“双簧信”事件，在否定当时最有名的翻译界“大文豪”之“错漏百出”，援引过莎士比亚的戏曲被林纾小说化，作为林译的一条铁的罪证。

近年来，樽本照雄先生专事《林纾冤罪事件簿》的梳理与研究，最先发现林纾的《吟边燕语》“莎翁乐府”其实就是兰姆姐弟改写的《莎士比亚故事集》。而《凯撒遗事》等“莎翁乐府”其实也是奎勒·库奇改写的《莎士比亚历史剧故事集》。林纾不懂文体跨界的“豪杰译”之冤过，便也不攻自破了。

类似这种栽赃林翁琴南的诸多“湿衣”，都有赖于今日学者用更敏锐的放大镜或显微镜去一一抉择，从而还原历史的本来面目。

樽本先生在林译底本方面多所发明的成果，尤其值得国内诸多林译研究的年青学人们好好取鉴，作为他山之石，来攻取被钱钟书先生称为“缺点”的林纾研究的谜团难关。

在钱先生写给张俊才教授的一封信函中，针对历来“林纾的翻译”研究之不足，钱老一针见血地指出：

“感觉到一切讲林译的文章，都有两个缺点：（一）对于西文原著缺乏认识（更谈不上研究）；（二）对于中国的文言文缺乏认识（也谈不上研究）”。*1

前者之所以重要，是因为我们如果对林译的“西文”原著缺乏认识，下一步的研究就会成为空对空的“翻译”研究。

最近有一篇谈论林纾伊索寓言“改写”的文章，查阅文末列出的原著：

Aesop's Fables [M]. Shanghai: Commercial Press, 1852.*2

我不禁哑然失笑。上海商务印书馆创办于何年？鸦片战争之后十年就出版的“Aesop's Fables”会是商务馆的出品么？

虽然笔者几年前就自认为发现了百年未解的林译《希腊名士伊索寓言》的底本之谜，也为此申报过从省内到教育部等各个级别的研究课题立项，但截止目前，却一直筹措不到出版一本林译底本终被发现的书稿的经费。

去年终于在闽省社科研究基地的工院福建地方文献中心拿到一个招标的项目。虽然只有寥寥几千块钱，但总算给自己壮一下胆来猜谜，去探究学界在林译伊索的底本上的百年之谜了。

根据马泰来《林纾翻译作品全目》的研究，林译原著作者书名，计共考出书名118种，其中46种补正前人所失考或误考。马先生对《伊索寓言》的考订如下：

“希腊作品一种，单行本一种

AEsop 一种

150.《伊索寓言》

严培南、严璩同译。商务印书馆，光绪二十九年(1903)? 初版月份未详。美国加州大学东亚图书馆藏光绪二十九年五月四版。但商务印书馆民国二十七年(1938)四月国难后第一版，版权页谓：“丙午年(1906)十一月初版”。朱羲胄、曾锦璋则谓光绪三十二年(1906)十二月初版。”*3

在1982年10期《读书》发表的《关于〈林纾翻译作品全目〉》一文中，马先生希望读者提供“仍未见原著”的《埃司兰情侠传》(编目001)等六种作品的资料。而全目编号150的《伊索寓言》严格说来，也应包括在内。

在这110年的林译伊索书面世的历史长河中，无数专家、学者都对林译小说中的名作《伊索寓言》投注了大量的关注。第一个系统研究《林琴南》的寒光说：

“伊索(AEsop)原著

《伊索寓言》一册(Fables)

严培南兄弟口述的。以上为希腊的，共一部、一册。”七一页又说：“《伊索寓言》的口述者(译文底本)，不知是英文或法文。”*4

下迄2007年，张俊才先生在中华书局出版《林纾评传》修订本，附录二《林纾翻译目录》有：

“希腊(作家1名，作品1种)

153.《伊索寓言》

伊索(Aesop)原著。严培南、严璩口译。光绪二十九年(1903)五月商务印书馆印行第四版。接：初版时间未详。”*5

在《伊索寓言》后依然尚未列出原著本名、出版时间。

2008年，哥伦比亚大学的韩嵩文博士在《Lin

Shu, Inc.: Translation, Print Culture, & the Making of a Modern Icon》中详细讨论了林译伊索寓言。他指出：林纾翻译《伊索寓言》所根据的原文的版本亦似乎仍难以确定。根据美国学者 Robert Compton 的说法，它可能是法文，但是《东方杂志》的广告，却说明是从英文翻译的。然而，就目前现存约一百本十八、十九世纪的英、法文《伊索寓言》版本观之，并不存在与林纾《伊索寓言》故事的顺序或版画相对应的原文版本。他认为合成林纾和严氏兄弟译书的原著底本可能不止一个。为了中英对照讨论的便利，Hill 还不得不用英文自译了林本的《狼与羔》(110页)、燕与蛇(111页)、狮夸子(113页)几篇。

几年后 Hill 博士在美国牛津大学出版社推出《Lin Shu, Inc.》“林纾文字制造厂”一书后，厦门大学的张治先生写了书评《林译小说作坊的生产力》，开门见山地谈到：

“2013年伊始，承蒙金雯女士赐阅刚刚出版的韩嵩文新著《林纾公司：翻译与现代中国文化的生成》(Lin Shu, Inc., Translation and the Making of Modern Chinese Culture, Oxford Up, 2013)，我有缘第一时间再度瞻睹这位勤奋学人的最新研究成果。开卷之前，我心中最为期待的，是希望看到作者在七年后披露出新的考证成果来。但粗览一过，感觉有些失望，关于《伊索寓言》底本的内容，还是原来那几句话。我原本以为他会利用西方学术优势，对于林译小说底本进行广泛考索。然而，这本书并未涉及太多的林译小说文本，与国内常见的一些林纾研究专著一样，仍以几部耳熟能详的林译小说为代表。当然，我们了解细琐考据是意图发明体系的学者所不屑为之的，而抽样调查可以产生关注点更为集中、问题意识更为突出的论述。”*6

类似张先生的这种“失望”，相信不少学者心中一定同样存在。当年在荷蒙韩嵩文先生慨赠博论，以供笔者撰写《2008年中外林纾研究综述》的时候，在下心里就萌生了意欲破解这一超级谜

团的宏伟壮志。如今八年已经过去，我的发现究竟如何？

林译《伊索寓言》问世虽然已达百又十年，但它的原著的本子究竟如何，是什么语言？这个对学界至今尚是不解之谜的问题，现在是否马上就可以得到揭晓呢？

本文不准备仓促地抛出自己在几年中探索的最终结果（并非有意卖关子，除非有人早已公布了自己的真相发现），仅从韩先生在美国大学博士论文中讨论过的几篇寓言入手，来看一看自己寻觅的文本，在多大的程度上会契合我们可能认同的林译底本。

先看《狼与羔》的故事。

就乳之羔失其群，遇狼于水次。狼涎羔而欲善其辞，俾无所逃死，乃曰：“尔忆去年辱我乎？今何如？”羔曰：“去年吾方胎耳，焉得辱公？”

狼曰：“尔躡吾草碛，实混吾居。”羔曰：“尔时吾方乳，未就牧也。”

狼曰：“若饮洄而污吾流，令吾饮不洁。”羔曰：“吾足于乳，无须水也。”

狼语塞，径前扑之，曰：“吾词固不见直于尔，然终不能以语穷而自失吾馘。”嗟夫！天下暴君之行戮，固不能不锻无罪者以罪，兹益信矣。

畏庐曰：弱国羔也，强国狼也。无罪犹将取之，矧挑之耶？若以一羔挑群狼，不知其膏孰之吻也！哀哉！*7

这则故事，韩先生因为一直找不到与之相配的原文，只好自己动手翻译了出来：

A suckling lamb was separated from its flock, and encountered a wolf by the side of the water. The wolf was drooling over the lamb, but wanted to perfect his argument so that the lamb would have no way to escape. The wolf said, "Do you remember how you insulted me last year? What now?" The lamb said, "Last year I was in the womb. How could I insult you, sir?" The wolf said, "You trampled my grass to death, and used my home for a toilet." The lamb said, "I had just begun to suckle then, and had not been put out to graze." The wolf said, "When you drink from here you dirty the water, and make me drink unclean water." The lamb said, "Milk is enough for me; I do not need water." The wolf was at a loss for words, but seized the lamb and said, "My words may not apply to you, but after all I should not let a lack of words cause me to lose my meal." Alas! As the world's tyrants send people to their death, they cannot but lop off the heads of those who are blameless by pinning a crime on them. This is worth believing.

民国十八年《伊所伯的寓言》一册，在孔夫子网曾经拍卖过，笔者与人争竞，对方始终在我的基础上增加几元。多次交锋后，我只好被迫放弃。

后来我侥幸在超星图书网上查到了此书。汪原放（1897~1980）对此篇的翻译是：

試，却折不斷他。他後來把那捆柴解了開來，一根根分開，遞在他們的手裏；他們便毫不費力，一折就斷了。他纔對他們說道：「我的兒呵，要是你們同心合意，合起羣來，你幫助他，他幫助你，你們自和這一束緊捆的柴一樣，隨你們的敵人用什麼方法也傷害你們不了；但是假如你們自相分裂，你們就要同這些拆散的細柴一樣，容易遭人摧折了。」

三
 理由，好叫那小綿羊被他吃了也心服。他對他說道：「哼，你去年很
 一隻狼碰着一隻失羣的小綿羊，不願意下凶手，只想尋出一點
 三
 五

狼和小綿羊

三



住他，把他吃了，說道：「罷了！我不能不吃晚飯，那怕你把我的理由一句句都駁倒了。」

蝙蝠和鼠狼

一隻蝙蝠跌在地上，被一隻鼠狼捉住了，哀求饒命。鼠狼不答應，說他自己是天生的鳥類的仇敵。蝙蝠連忙對他表明他并不是一隻鳥，是一隻老鼠，因此把性命留牢了。過不了一會兒，那隻蝙蝠又跌在地上，被另外一隻鼠狼捉住了，他又求他不要吃他。鼠狼說他和老鼠是有特別仇隙的。蝙蝠登時又趕緊表白他不是一隻老鼠，是一隻鳥，於是又脫離了危險。

五

对照林纾的翻译，可知二者相当接近。而汪原放《译者的话》交代自己依据参照的是乔治弗莱蒙生的英译本，“我承认他是一个最完善的译本，一个‘集其大成’的译本”，“因为他在他的序里（可惜未注年月，也没有出版的时期）说是一六一〇年至一八五七年的重要的版本，是他搜集来译成这个本子的来源”。

上面这一段的英文翻译在 George Fyler Townsend's translation of Aesop's Fables 是这样的：

A WOLF meeting with a Lamb astray from the fold, resolved not to lay violent hands on him, but to find some plea, which should justify to the Lamb himself his right to eat him. He thus addressed him: "Sirrah, last year you grossly insulted me." "Indeed," bleated the Lamb in a mournful tone of voice, "I was not then born."

Then said the Wolf, "You feed in my pasture." "No, good sir," replied the Lamb, "I have not yet tasted grass."

Again said the Wolf, "You drink of my well." "No," exclaimed the Lamb, "I never yet drank water, for as yet my mother's milk is both food and drink to me."

On which the Wolf seized him, and ate him up, saying, "Well ! I won't remain supperless, even though you refute every one of my imputations." The tyrant will always find a pretext for his tyranny.

那么，仔细对照分析韩的英译与林译文，发现 Townsend 的英文与汪的白话翻译，其实非常酷似林纾的古文，虽然细节上有一些不同。狼与小羊一问一答，在三个文本中完全都是对应的（三个回合的交锋），没有任何数量上的削减。

再看《燕与蛇》(111页)、《狮夸子》(113页)的故事:

燕方春依人而巢。营与会鞠之堂。一卵数子。蛇食之都尽。燕归大哭曰。吾在客之苦。甚于人哉。此间讯鞠之堂。凡人有所冤。皆得申理。而吾独否。

*9

When spring arrived, a swallow decided to make it nest among humans. It lived in a courthouse and laid several eggs, but a snake ate all of them up. When the swallow returned [to the nest], she wept, saying, "Alas, how could this happen, especially among humans? This is a courthouse, and anyone who has been wronged can bring their complaint forward before the court, but only I cannot."

The Swallow, the Serpent, and the Court of Justice Townsend 83:

A Swallow, returning from abroad and especially fond of dwelling with men, built herself a nest in the wall of a Court of Justice and there hatched seven young birds. A Serpent gliding past the nest from its hole in the wall ate up the young unfledged nestlings. The Swallow, finding her nest empty, lamented greatly and exclaimed: "Woe to me a stranger! that in this place where all others' rights are protected, I alone should suffer wrong."

故事也都是在燕子的哀叹声中戛然而止，再次验证了 Townsend 的英文非常酷似林纾的文本。

第三个例证是 Townsend 42:

A controversy prevailed among the beasts of the field, as to which of the animals deserved the most credit for producing the greatest number of whelps at a birth. They rushed clamorously into the presence of the Lioness, and demanded of her the settlement of the dispute. "And you," they said, "how many sons have you at a birth?"

The Lioness laughed at them, and said: "Why! I have only one; but that one is altogether a thorough-bred Lion."

The value is in the worth, not in the number.

林纾翻译云:

“野兽鳞集。争诩谁之多子。质于雌狮。曰。君一胞。得子几也。雌狮笑曰。予每育一耳。然其生也。即为狮。天下贵产。不以数争。安有以多寡定贵贱者。”

笔者尝试着标点一下:

野兽鳞集，争诩谁之多子，质于雌狮。曰：“君一胞，得子几也？”

雌狮笑曰：“予每育一耳。然其生也，即为狮。”

天下贵产，不以数争。安有以多寡定贵贱者？

韩嵩文的英译云:

When the animals got together to brag about who had the most children, one asked a lioness, "How many cubs do you have in each litter?" The lioness smiled and said, "I have only one child at a time, but when they are born, they are lions, one of the world's great treasures, and cannot be compared by their number. How can you decide what is valuable and not valuable by how few or how many of them there are?"

Townsend 文一共有三个层次：群兽去问狮子，母狮笑答，提取的教训。对照看林纾的译本（我有意将它分为了三段），应该也是一一对应的。

以上三个被美国汉学家谈到的林译伊索寓言，基本上都能够在 Townsend 的英文译本中找到基本对应的文本，说林纾的原来自“Aesop’s Fables”英文著作，应无疑义。

令人感到困惑的是，Townsend 的英文 Aesop’s Fables 版本相当复杂。笔者曾与 Creighton 大学的 Gregory I. Calson 先生联系过，对他的外文寓言藏品叹为观止，还建议他适当收藏一些中国的西方寓言译本。他的寓言书收藏网站 (Carlson Fable Collection) 上罗列的 Townsend 本有 Three Hundred Aesop’s Fables，也有 Three Hundred and Fifty Aesop’s Fables。而三百则的伊索寓言本子中，又有 312、313 则等不同类型。

据《清末小说》第 19 号发表郭延礼先生的《中国近代伊索寓言的翻译》，统计“此书共收伊索寓言 298 则”，而上海师范大学中文系杜慧敏提交的硕士论文《论明清伊索寓言汉译本的“讹”》，则说“第一个由中国人自己翻译”的林译本“共收寓言 299 则”。上海大学出版社的《伊索寓言古译四种合刊》在“编校说明”中明言“其书凡三百则”，且书末殿以“三〇〇铜匠与狗”。

那么林纾与严复子侄合作翻译所依据的外文底本，究竟是哪一种呢？

附：本文林严译书对照来源的英文原著可在线阅读、下载。*10

文章讨论的三则林译在《Aesop’s Fables Translated by George Fyler Townsend》(1880 年第 10 版 313 则) 中分别是第 31、83、42 则。与上述在线网本目录顺序上略有差异 (也是引起其底本探究长期未果之重要原因)，具体版本留待今后撰文再议。

四

【注】

- 1) 张俊才、王勇《顽固非尽守旧也：晚年林纾的困惑与坚守》，山西人民出版社 2012 年版，第 51 页。
- 2) 冯维维《林译〈伊索寓言〉改写研究》，《安阳工学院学报》2015 年 1 期。
- 3) 钱钟书等著《林纾的翻译》，商务印书馆 1981 年版，

第 93 页。

- 4) 寒光《林琴南》，中华书局 1935 年 2 月版，第 109 页。
- 5) 张俊才《林纾评传》，中华书局 2007 年版，第 286 页。
- 6) 张治《林译小说作坊的生产力》《东方早报》2013-03-24 上海书评，<http://www.dfdaily.com/html/1170/2013/3/24/966349.shtml>
- 7) 卫未《林纾、周作人的翻译辨析——以〈伊索寓言〉为例》，《名作欣赏》2014 年第 23 期，第 54 页。引用《名作欣赏》论文的引文，我对照了畏庐译本的原，没有二致。多出的只是现代汉语需要的标点。
- 8) 汪原放《伊所伯的寓言》，上海亚东图书馆 1929 年版，第 3 页。
- 9) 韩嵩文《“启蒙读本”：商务印书馆的〈伊索寓言〉译本与近代文学及出版业》<http://bbs.seu.edu.cn/pc/pcon.php?id=637&nid=8874>
- 10) Aesop’s Fables . <http://www.gutenberg.org/files/21/21-h/21-h.htm>

本文为福建省社会科学研究基地福建工程学院地方文献整理研究中心招标项目 2015DFWX-B03 成果。作者系福建工程学院林纾文化研究所教授。



樽本照雄『初期刊物印書館研究 (增補版)』

ファイル名 cp3.pdf 約 25MB

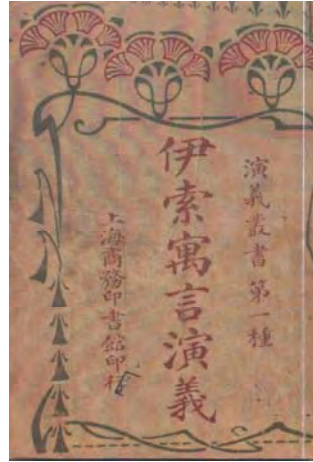
The Commercial Press of Early Date (expanded edition)
どちらも同じものです。

https://drive.google.com/folderview?id=0B9fUzbPLw-_sT3ZnUF1jVnJRbFE&usp=sharing

<https://onedrive.live.com/redir?resid=EA5DFFD590AA8F68!7664&authkey=!AJKeFJ3XplvFoJQ&ihint=file%2cpdf>

孫毓修『伊索寓言演義』の底本

沢本 郁馬



(図1) 影印本

清末民初の漢訳について解決が容易でない問題がある。漢訳がよった底本を見つけることだ。

昔の中国では、原本を明らかにするほうが少なかった。手探りで探さざるをえない。

一方で、原作がわかっていても、漢訳の底本をさがすのがむづかしい作品がふたつある。アラビアン・ナイトとイソップ寓話だ。

なにしろ原本の種類と数の多さでは群を抜いている。これらに関して底本特定に取り組む研究者はほとんどいない。手間ヒマかけても失敗することのほうが多いとわかっているからだ。

底本特定の重要性が中国の学界で認識されているかどうかは不明だ。イソップ寓話のばあい、底本がわからないにもかかわらず、漢訳が「原文」にくらべて忠実だとか忠実ではないとか書く研究者がいる。漢訳とは関係のない見当違いの「原文」と対照してどうしようというのだろうか。研究論文として基本から成立しないことが理解できないようだ。

本稿は、漢訳イソップ寓話のひとつ孫毓修訳『伊索寓言演義』の底本をさぐる。

今までの研究

本稿の対象は、孫毓修訳『伊索寓言演義』(上海・商務印書館1915.3.22 初出未見 演義叢書第一種 図1)である。

目次のうしろに孫毓修の「識」がある。133話、挿絵100点はアメリカで新しく出版された本によって翻訳したと書く。ただし、原本の書名は出さない。これが底本問題を発生させた。

目についた先行文章を見る。

戈宝権(1992)*1にとって、孫毓修本はなつかしい本らしい。彼が幼年時にはじめて読んだイソップ寓話が孫毓修の漢訳本だった。読みやすく挿絵も斬新で、後年まで忘れることができなと書いている(448頁)。英訳に基づいているというだけ。漢訳の底本については無視する。

張沢賢(2008)*2が珍しいのは、写真を掲載していることだ。表紙(上海図書館蔵書印あり)、奥付、および「狼と子羊」の見開き2頁に挿絵がそれぞれついている(後述)。孫毓修の識語にもとづいて133話、挿絵100点、アメリカの最新出版物から翻訳したと説明する。底本には言及がない。

柳和城(2011)*3は、孫毓修についての専門書を書いた。漢訳本文を林紘らの『伊索寓言』と比較対照をするのだが、底本を解説しない。専門書であっても底本は不明のままということらしい。

郝景東(2014)*4は、孫毓修本が版を重ね、1934年には『伊索寓言』と改名し「小学生文庫」に収録されたことをいう。それほど読者から歓迎された理由を少年児童という読者に順応する策略をとったからだと分析する。孫毓修がそれぞれの寓話にほどこした評語について、道徳教

育の要素をつけ加えたと見る。また、児童に受け入れやすくするための工夫に挿絵を大量に収録したことをいう。その挿絵が誰の絵なのかは説明しない。英語の底本について何も知らないから説明のしようがない。底本と比較すれば孫毓修の書き換えた部分が判明する。そこを指摘すればもっと内容のある論文になったはずだ。

王啓偉、李宝珠(2015)*⁵は、底本について述べない。ところが、上海世界図書出版公司2009年版の『伊索寓言』を「原文」だと称して孫毓修漢訳本文と比較対照している。おかしいだろう。翻訳の時間的流れを図式にすれば、原文 底本 漢訳の順になっている。その肝心の「底本」を抜きにしていわゆる「原文」と直接比べるのは研究の手法として間違っている。しかも、孫毓修漢訳からずっと後の刊行物だ。時間が逆転している。ここはどうしても「底本」を先に指摘し、そのあとで本文比較をしなくてはならない。

底本を明示した論文

孫毓修漢訳の底本を明示する論文が、日本で発表されている。

内田慶市(2001)*⁶である。

上で紹介した孫毓修の識語を引用し次のように推測した。

ここで言う「アメリカの最新版」というのは、収められている挿絵の類似性からして、恐らくは『通俗伊蘇普物語』(渡部温)の底本ともなった、Thomas James 本⁽⁹⁾だと思われる。139頁

挿絵を収録した漢訳本は、その挿絵が底本を特定するための重要な手がかりになる。漢訳者は、もとづいた原書に挿絵があればそれをそのまま訳書に収録するだろう。そういう前提があるからだ。

内田は研究の手順を正しく踏まえたうえで、

「挿絵の類似性からして」ジェームズ本だと指摘した。

内田自身は、孫毓修本を「北京図書館蔵」(139頁)で確認したようだ。それとジェームズ本を比較対照したうえで挿絵の類似性をつかんだ。

次に内田の示す注9を引用する。

(9)筆者が見た James 本は *Aesop's Fables: A new version, chiefly from original sources, by The Rev. Thomas James, M. A., with more than one hundred illustrations designed by John Tenniel.* (London: John Murray, Albemarle Street., 1848、ハーバード大学図書館蔵)で、それに収められている寓話は98話しかない。ただし、筆者は未見ではあるが、James 本の本原書には200話以上収められていたはずである。143頁

98話しか収録していないジェームズ本が底本だという。この説明を読んで私は首をかしげる。孫毓修本は133話だから底本のほうの収録数が不足する。孫毓修が勝手に増補したということだろうか。ここは「200話以上収められていたはず」のジェームズ本を見るべきだった。寓話の数があわない書物を持ち出してきては、証拠不十分だ。不安に思う。

つづけて、その後に再版された商務印書館「小学生文庫」、それも1966年の台湾商務印書館版について説明をはじめ。挿絵について重要な違いがあるといい、「「小学生文庫」本は「演義」本をほとんど踏襲しながらも、Jacobs 本も参照していたということになる」(141頁)だ。つまり、挿絵のすべてが「Joseph Jacobs 本の Richard Heighwai によるそれに差し替えられている」と書く*⁷。

これはどういうことだろうか。挿絵は底本と切り離すことができない。だからこそ重要な手がかりになると考えられているのだ。それからすると、挿絵のすべてを別人のものに差し替え

ることは、底本の意味をなさないのではないが。

ジェイズ本は、はたして孫毓修本の底本なのだろうか。根本的な疑問が出てきた。

内田説を検討する

私が使用するのは、202話を収録するジェイズ本である。以下のとおり。

Æsop's FABLES: A NEW VERSION, CHIEFLY FROM ORIGINAL SOUECES, BY THE REV. THOMAS JAMES, M. A., WITH MORE THAN ONE HUNDRED ILLUSTRATION DESIGNED BY JOHN TENNIEL. LONDON: JOHN MURRAY, ALBEMARLE STREET. 1852 電字版

内田の使用したジェイズ本とは発行年が違う。また、収録する寓話が202話と増えている。挿絵は「不思議の国のアリス」で有名なテニエル(John Tenniel, 1820-1914)、イギリスのイラストレーターである。

「犬と影」を例にして孫毓修本「狗捉己影」(影印本を使用 図2)とジェイズ本「24 THE DOG AND THE SHADOW」(図3)の該当ページを示す。



(図2) 孫毓修5頁



(図3) ジェイズ本16頁

両者を見比べれば一目でわかる。似ているどころか、まったくの別物である。挿絵画家が異

なるから当然だろう。

孫毓修本にある犬の挿絵左下隅に Weir と画家の署名が見える。ウエア(Harrison Weir, 1824-1906)である。くり返すが、ジェイズ本の挿絵は、テニエル画である。

挿絵違いのほかに本文も出だしが異なる。

「犬と影」の冒頭は、それぞれつぎのようになっている。

【ジェイズ】16頁 A Dog had stolen a piece of meat out of a butcher's shop,

犬が一匹、肉屋から肉切れを盗み出し、.....

【孫毓修】5頁 有一只狗。在外边得了一大塊的肥肉。

犬が一匹、外で大きな脂身を手に入れた。

「盗む」と「手に入れた」とは違う。もっとも、ここは孫毓修が書き換えた(後述)。

孫毓修は、商務印書館で児童向けの童話叢書を編纂したことで知られる。グリムなど西洋の、あるいは中国の原話をもとにして書き換えて物語にする。日本では「再話」などともいう。ページ数をおさえ挿絵も入れたシリーズものだ。1908年頃から刊行しはじめた。沈雁冰(茅盾)も孫毓修に言われて参加していた。

孫毓修が書名に『伊索寓言演義』と「演義」をつけたのは、その童話叢書と同じ考えだからだ。原話にもとづき漢訳しながら自由に書き換えた。ゆえに漢訳本文だけを頼りにして底本を探索するのが一層むづかしくなる。

もうひとつだけ例をあげよう。牛のまねをして身体をふくらませる母蛙の話だ。

牛が子蛙を踏みつぶした。ほかの蛙が母蛙に牛が大きいことを報告すると、母蛙はこれぐらいか、とどンドン膨らませる。

要点のみを抽出する。

【ジェイズ】25頁「36. THE GROG AND THE OX.」挿絵が孫毓修本と違う。子蛙が踏み殺され

たことを母蛙に報告しない。母蛙はふくらませすぎてついには破裂した。

【孫毓修】96頁「田鵝学牛」挿絵がジェイムズ本と違う。子蛙が踏み殺されたことを母蛙に報告する。母蛙は膨らませ続けて腹の皮が破裂した。



(図4) ジェイムズ本



(図5) 孫毓修本

微妙に異なる。最後に母蛙が破裂するのは一致する。英訳原話そのものに、破裂するものと、破裂するからやめるように子蛙が忠告するものが存在する。ひとつしかないわけではない。

漢訳本文に孫毓修の手が自由に入っていることを考慮する。すると、やはり手がかりは挿絵にならざるをえない。

孫毓修本の底本 タウンゼント本

「犬と影」に見えるウイアだ。ウイア画といえ、タウンゼント訳に決まっている。ふたりの組み合わせでイソップ寓話がいくつか出版された。

そのなかのひとつは次のとおり。

REV. GEO. FYLER TOWNSEND, M.A.
THREE HUNDRED AÆSOP'S FABLES.
(WITH ONE HUNDRED AND FOURTEEN ILLUSTRATIONS) LONDON: GEORGE ROUTLEDGE AND SONS, 刊年不記(手書きで1867) 電字版

収録する寓話は313話、挿絵は114点だ。

「犬と影 THE DOG AND THE SHADOW」(図6)を掲げる。孫毓修本(図2)と署名までまったく同じだ。



(図6) タウンゼント本



(図2) 孫毓修本

【タウンゼント】39頁 A Dog, crossing a bridge over a stream with a piece of flesh in his mouth,

犬が一匹、口に肉の塊をくわえて小川にかかる橋を渡りながら.....

孫毓修本では、犬が橋に行くまでに大幅な加筆を実施している。その実態を示すために原文だけを引用して翻訳はしない。

【孫毓修】有一只狗。《在外辺得了一大塊的肥肉。旁人見了。自覺差異。但一時查訪不出他的肉。倒底是從那兒得來的。於是張三道。那是在肉鋪子偷來的。李四說。隔壁人家。買得一塊瘟猪肉。生怕吃壞了肚子。因此賞了這只狗。你也一句。我也一言。正是大風吹倒梧桐樹。自有旁人說短長。我們替人隱惡揚善。自當從李四的話。大凡狗所頂歡喜的。是得了吃的東西。在家裏舒舒服服的吃。那只狗。興興致致。啣了那塊肉。一路回家。好不得意。》半路上經過一條橋
.....4頁

《 》で囲んだ冒頭の163文字が孫毓修による加筆部分だ。犬が肉をどこから得たのかを話題にする。盗んだか、いや隣の人にくれてやったのだろう、云々。簡潔なタウンゼンド本にもとづいて孫毓修は加筆して説明を増やし小説化した。

タウンゼンド本に収録した313話から孫毓修は選択して133話を漢訳した。挿絵の114点から収録したのは98点だ(孫毓修が100点と説明したのは誤り)。

なにも問題はなさそうに思う。ところが、重要な挿絵そのものに疑問符がつくのである。

タウンゼンド本を底本にしたのは確かだ。だから挿絵はすべてウイア画で統一されているのかといえば、そうでもない。

孫毓修本の2-3頁を見てもらえればよい。見開きで2点の挿絵を掲げる。どちらも狼と子羊の絵柄だ。

ひとつの寓話に複数の挿絵をつけることもある。だが、この2点を見てほしい。ひとつの寓話をもとに描かれた。しかし、別の筆致であるのは、画家が異なるからだ。

左はタウンゼンド本のウイア画(図7)。右の1頁ものは、ドレ(Gustave Doré, 1832-1888)、フランスの画家の手になる(図8)。



(図7) ウイア画

(図8) ドレ画

もうひとつの例を出そう。

ウイアの挿絵を当然使うべき箇所に、別の挿絵で差し替えている(図9、図10)。



(図9) タウンゼンド本

(図10) 孫毓修本

孫毓修本では、ほかの箇所でもそのようなことをいくつかしている。また、底本にない挿絵を挿入する。いずれもイソップ寓話には違いない。孫毓修は、幾種類ものイソップ寓話の英訳書を参照して書き換えていることがわかる。だが、底本がタウンゼンド本であることは動かない。

あらためていう。挿絵をともなった翻訳の底本を探索するばあい、ひとつの鉄則がある。挿絵そのものが底本を特定する手がかりになる。重視すべきだし、研究者は当然そのように扱っている。それが研究の正しい手順だ。ただし、正しい研究手順をとりながら、間違った結論に到達することもあるらしい。

以上、孫毓修本の底本はジェームズ本ではなくタウンゼンド本であることを述べた。 罫

【注】

- 1) 「4.辛亥革命以後中漢訳伊索寓言史話」 戈宝権『中外文学因縁 戈宝権比較文学論文集』北京出版社1992.7. 447-451頁
- 2) 張沢賢『中国現代文学翻訳版本聞見録1905-1933』上海世紀出版股份有限公司遠東出版社2008.6
- 3) 『孫毓修評伝』世紀出版集団、上海人民出版社2011.10
- 4) 郝景東「孫毓修《伊索寓言漢義》編訳出版中の読

者順応策略探析」『出版発行研究』2014年第6期
2014.6.15

5) 王啓偉、李宝珠「論孫毓修《伊索寓言演義》中教育功能的建構」『淮北師範大學學報(哲學社會科學版)』第36卷第6期 2015.12

6) 内田慶市「4. 孫毓修の『伊索寓言演義』(1915)及びその他」『近代における東西言語文化接触の研究』関西大学出版部2001.10.25 関西大学東西学術研究所研究叢刊17。139-141頁。

7) 確認するためにジェイコブス本は次を見た。THE FABLES OF ÆSOP SELECTED, TOLD ANEW AND THEIR HISTORY TRACED BY JOSEPH JACOBS DONE IN THO PICTURES BY RICHARD HEIGHWAY. LONDON: MACMILLAN & CO., LTD. 1901 / 1922 電字版。参考までに次もある。(英)約瑟夫・雅各布斯選編、(英)理查德・海韋繪図、王仁芳、王惠慶、樊兆鳴、单雪編訳『[英漢双語]伊索寓言』上海科學技術文獻出版社2004.5。原本は1910年刊行



樽本照雄『商務印書館研究論集(増補版)』

ファイル名 cp2.pdf 約20.9MB

<https://drive.google.com/file/d/0B9fUzbPLw-emFNS0VxVVJSaDA/view?usp=sharing>

https://onedrive.live.com/redirect?resid=EA5DFFD590AA8F68!7662&authkey=!AHD1pnQc_NMtPQc&ithint=folder%2cpdf

論商務印書館对林译小说的重要作用

江 曙

据笔者统计，1903年至1919年商务印书馆出版林纾翻译的小说共121种。

商务印书馆是林纾小说翻译的赞助人，它为林纾提供丰厚的稿费，即经济上的支持。商务印书馆通过宣传推广为林纾和林译小说制造社会影响。最为重要的是商务印书馆与林纾在小说出版的目标读者群上达成一致，商务印书馆影响林译小说在内容和形式上的选择。

一 商务印书馆影响林译小说的内容和形式

商务印书馆与林纾在小说出版的目标读者群上达成一致，即传统文人和青年学生。《小说月报》主编恽铁樵1916年明确提出读者观：“第思一小说出版读者为何种人乎？如来教所谓林下诸公其一也；世家子女之通文理者其二也；男女学校青年其三也。”¹针对传统文人和青年学生，商务印书馆编辑影响林译小说内容和形式的选择。

商务印书馆前期以传统文人为目标读者群，当新式教育兴起后转向青年学生。林译小说针对的读者群也如此，前期林纾主要针对传统文人，“广译东西之书，以饷士林”，是“十余年莫竟之志”²。后期多转向青年学生，“冀以诚告海内至

¹ 恽铁樵：《答某君书》，《小说月报》1916年第6卷第2期。

² 林纾：《〈译林〉序》，《译林》杭州译林社，1901年第1期。

宝至贵、亲如骨肉、尊如圣贤之青年学生，读之以振动爱国之志气，人谓此即畏庐实业也。”³

当双方的目标读者群统一后，在小说内容的选择上易达成一致。林译小说在小说内容上多与时事结合，能够引起共鸣与关注。在小说翻译语言上，以古文翻译，林纾使用的古文更为灵活，不拘于桐城派式的古文，语言上更能被读者接受。林纾善于将国外的故事转化为中国传统文人和青年学生习惯阅读的内容和形式。

旧式文人和青年学生关注现实，所以林译小说与时事的联系紧密。林纾翻译《鬼山狼侠传》，源于“此书多虐贼事，然盗侠气概，吾民苟用以御外侮，则于社会又未尝无益。”⁴《红礁画桨录》则是鼓吹“倡女权，兴女学”的“大纲”⁵。林纾翻译司各德的《劫后英雄略》、《十字军英雄记》，希望以此来宣扬英雄主义。

林译小说的成功也多归功于使用古文，初期将西方小说与中国古文做对比。《黑奴吁天录》“是书开场、伏脉、接笋、结穴，处处均得古文家义法”⁶；《撒克逊劫后英雄略》的作者司各德“可侔吾国之史迁”，此书“往往于伏线结笋变调过脉处，大类吾古文家言”⁷；《斐洲烟水愁城录》的结构类似于“史迁联络法”“西人文体，何乃甚类我史迁也！”⁸林纾进一步对西方小说叙事进行分析。在叙事时间上学习倒装、插叙和补叙等。在叙事人称上，最为典型的是译作《巴黎茶花女遗事》，林纾将“我”改为“小仲马”。

林纾翻译小说早期采用对译法，一人口述，一人笔记。“而又不解西文，则觅二三同志取西文口述，余为之笔译。”⁹以致“余颇自恨不知西文，恃朋友口述，而于西人文章妙处，尤不能曲绘其状。”¹⁰随着翻译的增多，林纾对西方小说的叙事较为熟稔，翻译速度较快，“待人口述而笔之书，口译未尽，属文辄终，篇成脱手，无复点窜。”¹¹对翻译小说的理解愈深，“今我同志数君子，偶举西士之文字示余，余虽不审西文，然日闻其口译，亦能区别其文章之流派，如辨家人之足音。”¹²林纾为适应读者的阅读习惯和阅读兴趣，必须对外国小说进行改写。林纾翻译小说的方式不仅没有损害林纾小说翻译的质量和读者的接受度，反而成就了林译小说。

二 商务印书馆对林纾的经济支持

商务印书馆给付林纾的稿酬有多种说法。顾颉刚提出稿酬为“千字五元”：“圣陶尝告我，谓商务印书馆购小说稿，以林琴南氏稿出价为最多（每千字五元）。”¹³包天笑亦如此，“其时林琴南先生已在商务印书馆及其它出版社译写小说，商务送他每千字五元。”¹⁴最为普遍的说法是“千字六元”，源于郑逸梅所说：“当时一般的稿费每千字二至三元，林译小说的稿酬，则以千字六元计算。”¹⁵张元济在1916年日记中曾记到：“梦旦查

³ 林纾：《〈爱国二童子传〉达旨》，林纾、李世中合译《爱国二童子传》上海商务印书馆1914年版。

⁴ 林纾：《〈鬼山狼侠传〉叙》，林纾、曾宗巩合译《鬼山狼侠传》，上海商务印书馆1914年版。

⁵ 林纾：《〈红礁画桨录〉序》，林纾、魏易合译《红礁画桨录》，上海商务印书馆1914年版。

⁶ 林纾：《〈黑奴吁天录〉例言》，林纾、魏易合译《黑奴吁天录》，武林魏氏藏版1901年版。

⁷ 林纾：《〈撒克逊劫后英雄略〉序》，林纾、魏易合译《撒克逊劫后英雄略》，上海商务印书馆1905年版。

⁸ 林纾：《〈斐洲烟水愁城录〉序》，林纾、曾宗巩合译《斐洲烟水愁城录》，上海商务印书馆1913年版。

⁹ 林纾：《〈鹰梯小豪杰〉叙》，林纾、陈家麟合译《鹰梯小豪杰》，上海商务印书馆1916年版。

¹⁰ 林纾：《〈洪罕女郎传〉跋语》，林纾、魏易合译《洪罕女郎传》，上海商务印书馆1913年版。

¹¹ 朱羲胄编：《春觉斋著述记》（第三卷），上海世界书局1949年版，第1页。

¹² 林纾：《〈孝女耐儿传〉序》，林纾、魏易合译《孝女耐儿传》，上海商务印书馆1914年版。

¹³ 钱谷融主编：《顾颉刚书话》，浙江人民出版社1999年版，第248页。

¹⁴ 包天笑：《钏影楼回忆录》，香港大华出版社1971年版，第325页。

¹⁵ 郑逸梅：《林译小说的损失》，《中国近代文学史论文集·小说卷》，中国社会科学出版社1983年版，第688页。

告，琴南小说今年自正月至八月收稿十一种，共五十七万二千四百九十六字，计资三千二百零九元零八分。梦意似太多，余意只得照收。”¹⁶折合为千字五点六元，除去字数计算标准不统一问题，应为千字六元。郑逸梅后有“千字十元”说，“那时的稿酬，一般每千字二三元，惟有林纾的译作，商务却例外地以千字十元给酬。”¹⁷“千字十元”说其他人未曾提及，或为郑逸梅误记。

商务印书馆给其他译者的稿酬标准较多。1907年周树人、周作人兄弟译《红星佚史》，全书十万字，稿酬两百元，合计千字两元。周作人回忆：“平常两文的译稿只能得到两块钱一千字”，“这种标准维持到民国十年以后，一直没有什么改变。”¹⁸当时的刊物稿酬大致若此，《新小说》创刊号征文：“译本每千字酬金甲等二元五角，乙等一元六角，丙等一元二角。”¹⁹后期按照译者的社会地位、文学造诣等有所变化。汪诒年介绍陆秋心编辑小说，张元济“告以最高等千字三元，次二元五角，次二元。”²⁰孙毓修的稿酬，“千字二元，童话千字三元。”²¹也有较高的稿酬，包天笑1912年入编译所，后“包朗生在外编译，欲得千字四元。与梦翁商，拟如所欲，但以速为要。”²²而胡适在1918年可以得到千字六元。²³

林纾自翻译《巴黎茶花女遗事》后，名声大

噪，商务印书馆延请林纾为其翻译小说，应提供较高的稿酬，前期为千字五元，后期改为千字六元，最迟于1916年开始为千字六元。包天笑曾写到：“但林先生不谙西文，必须与人合作，合作的大半是他的友朋与学生，五元之中，林先生即使取了大份，亦不过千字三元（后来商务印书馆给林先生每千字六元）。”²⁴

其后，学者多沿用“千字六元”的稿酬标准。樽本照雄在《林纾研究论集》中指出：按照每千字六元，19年间林纾共有“1200万言”的翻译作品出版，按照“1千字6元”的标准，共计“72000元”的收入。²⁵

这些统计都未能充分考虑到林译小说合译者的报酬问题。关于林译小说合译者的报酬，包天笑曾提及：“但林先生不谙西文，必须与人合作，合作的大半是他的友朋与学生，五元之中，林先生即使取了大份，亦不过千字三元。”²⁶也就是五元的六成。

林纾写给陈器的信中也提及合译者报酬。陈器曾与林纾合译《深谷美人》（1914年）《痴郎幻影》（1918年）。“后此吾弟可自译抄好交来，愚为改删（王庆通亦然）。其所得润六成中，愚分三成有五，吾弟则二分有五。”²⁷即六元中林纾仅得六成。

依照樽本先生的计算标准，19年间林纾共有“1200万言”的翻译作品出版，按照“1千字3元5角”的标准，共计“42000元”的收入。目前所知的20位合译者的总酬劳为“30000元”，稿酬也非常可观。

林纾的实际所得稿酬在当时较高，能够保障

¹⁶ 张元济：《张元济全集》（第六卷），商务印书馆2007版，第95页。

¹⁷ 郑逸梅：《书报话旧》，上海学林出版社1982年版，第32页。

¹⁸ 周作人：《周作人回忆录》（内部发行），湖南人民出版社1980年版，第196-201页。

¹⁹ “本社征文启”，《新小说》1902年第1期。

²⁰ 张元济：《张元济全集》（第六卷），商务印书馆2007版，第12页。

²¹ 张元济：《张元济全集》（第六卷），商务印书馆2007版，第13页。

²² 张元济：《张元济全集》（第六卷），商务印书馆2007版，第8页。

²³ 张元济：《张元济全集》（第六卷），商务印书馆2007版，第323页。

²⁴ 包天笑：《钏影楼回忆录》，香港大华出版社1971年版，第325页。

²⁵ 樽本照雄：《林纾研究论集》，清末小说研究会2009年版，第285-286页。

²⁶ 包天笑：《钏影楼回忆录》，香港大华出版社1971年版，第325页。

²⁷ 李家骥等编：《林纾诗文选》，商务印书馆1993年版，第384页。

林纾的生活。较高的合译报酬也利于找到更好的合译者。这些都决定林译小说的数量和质量。

三 商务印书馆对林译小说的推介和林译小说地位的建立

商务印书馆具有广泛的发行销售网络，利于推广林译小说，塑造林纾的社会地位。据浙江张元济图书馆藏1907年版《创业十年新厂落成纪念册》，当时分馆与代理处已达300余家，国外代理处有朝鲜汉城、日本东京、越南河内、美国旧金山及南洋群岛诸处。据庄俞《三十五年来之商务印书馆》一文统计，至1919年前，共有上海2分店，其他地区25个分馆，4个支馆和3个支店，销售发行范围较广。²⁸

商务印书馆重点出版中小学教材，聚集众多青年学生读者群体，这利于读者接受林译小说。同时商务印书馆出版大量翻译小说，在翻译小说出版上具有一定优势。据陈平原在《中国现代小说的起点——清末民初小说研究》统计，1901至1916年间，八家出版翻译小说的书局中，商务印书馆出版的翻译小说高达241部，处在第一位，而仅次于它的小说林社只有90部。²⁹

商务印书馆在《申报》《新闻报》《中外日报》《时报》等刊物上大规模刊登小说广告，并通过《说部丛书》、《林译小说丛书》、小本小说等形式推广林译小说。《说部丛书》自1903年开始出版，有两个系列³⁰，第一个系列十部，每部十种，共100种，其中刊载林译小说共56种。第二个系列共四集，前三集每集一百种，第四集只出版二十二种。其中刊载林译小说共125种。《林译小说丛

²⁸ 庄俞：《三十五年来之商务印书馆》，《商务印书馆九十五年》，商务印书馆1992年版，第749-750页。

²⁹ 陈平原：《中国现代小说的起点——清末民初小说研究》，北京大学出版社2005年版，第41页。

³⁰ 神田一三：《商务印书馆版〈说部丛书〉的成立》，《清末小说》第25号2002年12月，第42-43页；或参看樽本照雄：《商务印书馆论集》，清末小说研究会2006年版。付建舟：《谈谈〈说部丛书〉》，《明清小说研究》2009年第3期，第304页。

书》自1914年开始出版，共两集，合100种182册。³¹

商务印书馆的广告策略包括图书预约广告、新书出版预告、发行销售广告和图书折扣广告等。新译《说部丛书》第三集第一次预约广告：“本书均系欧美名著，从前未经出版者，译笔隽雅，情文兼至，并有林琴南先生译本多种。”³²前期林译小说广告标注“闽县林琴南先生译本”³³。或标注“林译”，并与欧美名家小说整体推介：“其原本本系欧美著名小说家所撰，大都情事离奇，文心邃曲，一经先生移译，诙谐其笔，瑰丽其词，尤觉姿趣横溢，相得益彰。”³⁴或强调林译小说的古文价值。“林先生专治古文，名满天下，其小说尤脍炙人口，盖不徒作小说观，直可为古文读本也。”³⁵商务印书馆还刊载图书折扣广告。刊登“新年消遣之乐事”³⁶广告，特价销售，其中林译小说十五种。刊载“唯一无二之消夏品”³⁷广告，以侦探、神怪、言情、冒险、社会、历史等小说类型分类，依照“每类均须全售，概不零拆”的销售方式。并且单列林译小说十七种，以“定价十三元八角半，实洋七元五角”出售。

林译小说广告有一定的程式，先叙述小说内容，再加以评论，突出卖点。《撒克逊劫后英雄略》“慷慨悲歌，读之令人气壮，文亦细针密缕，绘影绘声，真奇观也。”³⁸《三千年艳尸记》“译笔尤能曲折委婉，诚神怪小说中之奇观也。”³⁹《橡湖仙影》“是书为林琴南先生之最经意之作，

³¹ 江曙：《商务印书馆与林译小说》，《中国社会科学报》2015年12月10日。

³² 商务印书馆编：《图书汇报》，1916年第58期，引自刘洪权编：《民国时期出版书目汇编》（第一册），国家图书馆出版社2010年版，第177页。

³³ 广告，《新闻报》1907年2月20日。

³⁴ 广告，《神州日报》1909年5月9日。

³⁵ 《法政杂志》1911年第5期。

³⁶ 《申报》1911年2月9日。

³⁷ 《法政杂志》1911年第6期。

³⁸ 《小说月报》1911年第2卷第1期。

³⁹ 《小说月报》1911年第2卷第1期。

视迦茵及《红礁画桨录》二书尤多精采……哈氏第一书，亦林氏第一书也。”⁴⁰

不仅在报刊上登载小说广告，商务印书馆还通过刊发相关小说理论文章鼓吹林译小说。在《小说月报》刊登“侗生”的《小说丛话》，“惟林先生再接再厉，成书数十部，益进不衰，堪称是中泰斗矣。”“林先生所译名家小说，皆能不失原意，尤以欧文氏所著者，最合先生笔墨。”⁴¹

商务印书馆还借助政府力量来推介林译小说。1906年国内成立“劝学所”，主要职责“辅佐县知事办理教育行政事宜”和“综核全县自治区教育事务”⁴²，随之开办宣讲所，其中林译小说《黑天奴吁天录》《鲁宾逊漂流记》《美洲童子万里寻亲记》三种入选宣讲用书。⁴³民国时期教育部组织成立的通俗教育研究会，旨在对新旧小说“调查、编辑、改良、审核小说书籍撰译事项”⁴⁴，将《伊索寓言》⁴⁵列入推广书目。林译小说有十部小说入选“教育部褒奖通俗教育小说”⁴⁶。《美洲童子万里寻亲记》等多部入选“学部审定宣讲用书”⁴⁷。

商务印书馆还设置阅书处和设立图书馆供读者阅览小说。1907年《大公报》刊载“天津商务

印书馆分馆广告：新设阅书处”⁴⁸。1909年设立涵芬楼，部分开放给读者阅读，这些都利于林译小说的阅读与接受。

林纾通过商务印书馆的商业推广和形象塑造，成为当时最著名的小说翻译家，林译小说也被认为翻译小说的佳作。

结语

林译小说从1916年后数量激增，1912年2部，1913年3部，1914年3部，1915年5部，1916年13部，1917年11部，1918年10部，1919年12部。赞助人的影响，使林纾的翻译几于定型，形成一整套的模式，随之而来是译书质量的下降。1917年张元济日记中记到：“竹庄昨日来信，言琴南近来小说译稿多草率，又多错误，且来稿太多。余复言稿多只可收受，惟草率错误应令改良。候梦归商办法。”⁴⁹从以前的来稿全收，后张元济对林纾译稿亲自审核，1917年8月提及：“林琴南译稿《学生风月鉴》，不妥，拟不印。《风流孽冤》拟请改名。《玫瑰花》字多不识，由余校注，寄与复看。”⁵⁰

陈衍曾戏称林纾的书房是博取稿费的“造币厂”⁵¹。后期林纾的社会角色和认知从“小说家”或“翻译者”向“古文家”转化。随着白话文的兴起，林译小说渐趋没落。

囍

⁴⁰ 《小说月报》1910年第1卷第5期。

⁴¹ 《小说月报》1911年第2卷第3期。

⁴² 《关于劝学所之设置及其权限案》，邵爽秋等合选《宣统三年至民国十五年历届教育会议决案汇编》（第二册），全国图书馆缩微复制中心2009年版，第129页。

⁴³ 东尔：《林纾和商务印书馆》，《商务印书馆九十年》1987年版，第537页。

⁴⁴ 《通俗教育研究会章程》，《（民国）教育部文牍政令汇编》（第二册），全国图书馆缩微复制中心2004年版，第695页。

⁴⁵ 《咨各省区请转飭所属讲演机关采用审定之讲演参考用书文》，《（民国）教育部文牍政令汇编》（第三册）全国图书馆缩微复制中心2004年版，第1177页。

⁴⁶ 《通俗教育研究会审查小说报告》，《教育公报》1916年第11期。

⁴⁷ 广告，《新闻报》1907年2月18日。

此文为中国教育部人文社科青年项目《阅读史视野下的近代出版机构与小说研究》（项目批准号：15YJC751020）的阶段性成果。作者单位：中国暨南大学文学院

⁴⁸ 《大公报》1907年3月25日。

⁴⁹ 张元济：《张元济全集》（第六卷），商务印书馆2007版，第214页。

⁵⁰ 张元济：《张元济全集》（第六卷），商务印书馆2007版，第242页。

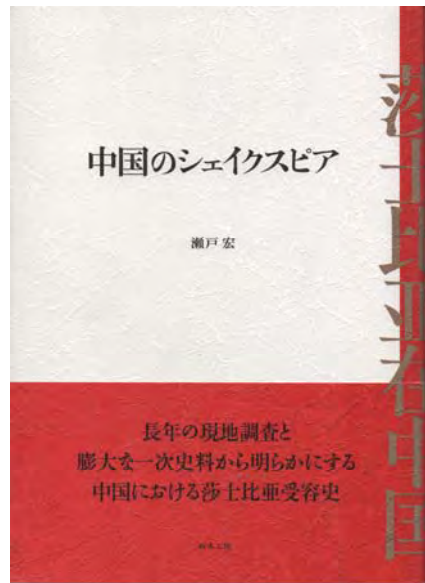
⁵¹ 陈衍：《林纾传》，《福建通志·文苑传》（第九卷），民国十年（1921）刊本，第26页。

中国のシェイクスピア最新成果

樽本照雄

北京大学の陳独秀は、自身が主宰する『新青年』で文学革命運動を力強く推進していた。しかし、賛成者がいない。また、期待していた保守派からの反対もまったくない。反対があればそれに反撃することによって運動に弾みをつけることができる。だが、無視された。そこで一九一八年、錢玄同(北京大学)が「王敬軒」という筆名を使い、いかにも保守派が言いそうな文章を作文した。林紆氏は現代の文豪(当代文豪)である、と持ち上げたのだ。それに劉半農(北京大学)が反論を書く。林紆に文学的意味はないと徹底的に林紆を批判する。ふたりは事前に打ち合わせている。これが有名な「なれあいの手紙」だ。数え年六十七歳の林紆が反対派の代表として文学革命派から指名された瞬間である。中国現代文学史では、文学革命派のこの林紆批判に対して非常に高い評価を与えている。日本の学界も同様であって例外はない。

劉半農は、非難の根拠のひとつとして林紆『英国詩人吟辺燕語』をあげた。『吟辺燕語』は小説体だ。非難して林紆は「詩」と「戯」の区別がつかないと書いた。シェイクスピアの戯曲を勝手に小説にかえて漢訳したという意味だ。慣用句「豆と麦の区別がつかない(不辨菽麥)」を使って嘲笑した。いわゆる「区別がつかない



論」である。

一九二四年に林紆が死去した際、鄭振鐸が追悼文を『小説月報』に掲載してこの「区別がつかない論」を決定的なものにした。その時、鄭振鐸は根拠となる作品を差し替えた。さきの『吟辺燕語』は取り下げ、別のシェイクスピア「ジュリアス・シーザー(凱撤遺事)」、イブセン『幽霊(梅孽)』などを証拠にあげた。林紆は小説と戯曲の区別がつかないとくり返し、劉半農に追従し林紆批判を継続した。

それ以来、中国では現在にいたるまで「区別がつかない論」は学界公認の定説となっている。

事實は異なる。林紆は戯曲と小説の区別をつけていた。『吟辺燕語』についていえば、ラム姉弟『シェイクスピア物語』が底本である。シェイクスピアの戯曲をラム姉弟が小説に書き直した。林序を読めば、シェイクスピアの戯曲とラム姉弟の小説は区別して認識していることがわかる。ただ、ラム姉弟の名前を出さなかっただけ。この当たり前の事実を、劉半農は知らないふりをして林紆批判を展開した。林紆からすれば無実の罪である。

鄭振鐸があげた別の作品もすでに小説化されたものだ。林紆が小説になっているのは不思議ではない。鄭振鐸はその事実を知らなかった。

自分の無知を棚にあげて林紘に濡れ衣を着せて非難した。鄭振鐸の批判はもとから成立しない。

のちの研究者は、劉鄭説を受け入れ「区別がつかない論」を支持し現在も林紘批判を続けている。

私が興味を持っているのは、まさにこの点にほかならない。林紘の冤罪を認めるか否か。冤罪であることを確認して林紘を正しく評価しなおすか、あるいは、濡れ衣を着せた劉半農、鄭振鐸らの誤った観点を継承するのか。

前者であれば、中国のシェイクスピア受容史に躍動する展望を見いだす独自路線を歩くことが可能になる。後者は、林訳シェイクスピアに対する負の評価を維持したまま現在の閉塞状態にしがみついて事大の道を行くことを意味する。二者択一しかない。研究者にとっては分岐点だ。

瀬戸宏『中国のシェイクスピア』(松本工房二〇一六・二・二九)の「第二章 林紘のシェイクスピア観」がまさに該当する。

シェイクスピアを詩人と劇作家にわけて呼ぶのは現代の常識だ。しかし、林紘の時代には「劇作家」という単語は使用されていない。劇作家を含めて「詩人」と称していた。

シェイクスピア劇は、無韻詩 blank verse (弱強五歩格。脚韻を踏まない韻文)で書かれているから詩である。ゆえにシェイクスピア劇を詩とよぶことは当然のことだ。

林紘はそれを知ったうえでシェイクスピアを詩人だと書いている。ラム『シェイクスピア物語』を漢訳して『英国詩人吟辺燕語』とした。「英国詩人」はシェイクスピアを指し、「詩人」は劇作家という意味であるのは当然だ。

林紘のシェイクスピア理解を知るためには、林序を読むしかない。ここに出てくる「詩」をどう解釈しているのかが問題だ。林序以外にでてくる瀬戸博士本のページ数も示す。

原文 - 樽本訳 / 瀬戸博士訳の順に示す。

詩家之莎士比 - 詩人のシェイクスピア / 詩人のシェ

イクスピア 89頁

莎氏之詩 - シェイクスピア劇 / シェイクスピア氏の詩 89、90頁

莎士比筆記 - 『シェイクスピア物語』 / シェイクスピアの要約 91、94頁

莎詩之記事 - シェイクスピア劇の物語 = 『シェイクスピア物語』 / シェイクスピアの詩の要約 91、94頁

莎詩紀事 - 『シェイクスピア物語』 / シェイクスピアの詩の記事91頁、シェイクスピアの梗概 99頁

林序に見える「詩」は、戯曲である。くり返せば「詩人」は現代でいうところの劇作家だ。

瀬戸博士が書いている「詩の要約」「詩の記事」とは具体的には何を意味しているのか。林紘が詩(戯曲)と小説を区別して語句を書き分けているにもかかわらず、日本語訳がゆれている。瀬戸博士は自分で書きながら不審に思わなかった理由を自白している。「林紘が『吟辺燕語』の底本を記さなかったのも、ラムが『シェイクスピア物語』を書いたのは単なるシェイクスピア作品の圧縮にすぎず、両者の間には本質的な相違はないと考えたからであろう」(94頁)

林紘は戯曲と小説の区別がつかない、という先入観を持って林序を読むと上のような解釈と結果になる。事実、瀬戸博士自身が区別をつけることができないのだ。

瀬戸博士は、林序を翻訳し次の部分を引く(71、94頁では同じ箇所を示して字句が異なる)。

「しかしながら私が聞いたところによれば、彼らの名士はシェイクスピア氏の詩を酷愛し、あらゆる家で愛唱されて終わることがない。そして劇界に与えて台本とし、男も女もそろって聴き、感激して涙を流すという」(90頁)

次のような解釈をする。

「ここに、林紘のシェイクスピア観が集中的に表現されている。林紘の認識では、シェイクスピア作品はまず詩として書かれ、それが広く愛唱されたため演劇の上演台本として用いられ

るようになったのである」(94頁)

ここに、瀬戸博士の無理解が集中的に表現されている。「詩」をあいまいにしたまま、「劇界に与えて台本とし」部分を「演劇の上演台本として」と考え、あたかもシェイクスピアその人の脚本になったように説明している。ここの上演台本はシェイクスピア劇そのものではない。もとが伝聞である。イギリスの名も知れぬ好事家がシェイクスピア劇をとくに好みそれを家庭で朗読し、その後自分なりの脚本に書き換えて劇場にかけた、という意味でしかない。

「誤った通説」(93頁)だという。「林紓が戯曲を小説化して訳したという通説」は「錯覚であった」(100頁)、「従来の通説は正しくなかった」(101頁)など。しかもその誤りの責任は林紓にあるという。「林紓は戯曲と小説の本質的な違いが理解できず、依拠した底本の著者を記さず、これが鄭振鐸らの誤解、錯覚を引き起こす直接の原因となった」(106頁)と決めつけるのだ。

鄭振鐸らは「誤解」「錯覚」にもとづいて林紓を批判したわけか。無責任である。文学革命派が全力をあげて林紓批判を展開した事実を知らないはずはないだろう。戯曲を小説化して漢訳したと濡れ衣を着せた加害者は、文学革命派だ。着せられた被害者は林紓である。瀬戸博士のいう「誤った通説」は、被害者の林紓に責任転嫁した文学革命派の立場からの書き方だ。誤っているのだから林紓にとっては冤罪にほかならない。これが普通の感覚だ。「樽本氏の「冤罪」説は出発から無理があるのである」(99頁)意味不明。瀬戸博士は、加害者の劉半農、鄭振鐸らを擁護し、被害者の林紓を攻撃している。

以前、林紓のシェイクスピア理解について関西の研究会で発表するから出席するように言われたことがある。林序に出てくる語句について私は瀬戸博士に直接質問した。返答が意味不明で要領を得なかった。不思議に感じたのはそればかりではない。瀬戸博士の林紓についての説

明は、従来の言説をたどりつつ林紓批判をくり返すだけ。新しい発見がひとつもない。私を呼び出してまで発表する価値があるとは思えなかった。終了直前、多くの参加者によく聞こえるように普段よりも少し大きめの声で、当時の中国の知識人をバカにするのか、と丁寧にご忠告もうしあげた。瀬戸博士は沈黙したままだった。本書の該当部分を見て、私の忠告はなんの意味もなかったことがわかった。瀬戸博士はあの場で発したことばと同じく理解できない語句を林序に押しつけて平気である。自分の理解不足を林紓に自己投影して批判しているのだ。

本書は、凝った装丁と読みやすい組版、厚めの本文用紙を使用した造本がすばらしい書物だ。科学研究費補助金を支給されながら索引を作成しなかったのは理由があるのだろうか(索引がないなら学術刊行物にあらずという婉曲表現w)。

なお、瀬戸博士は樽本と論争したと書く。私はまったく知らなかった。

評者からのお願いと展望。

瀬戸博士には従来通りの林紓批判を訂正することなく堂々と末永く継続してもらいたい。中国の学界は、日本人演劇研究専門家瀬戸博士の論文、特に林紓批判部分については絶賛し大歓迎するだろう。 罇

清末小説から

崔文東氏、野間信幸氏より資料をいただきました。感謝します

李欧梵講演 晚清文化、文学と現代性 季進編『未完成的現代性』北京大学出版社2005.6 / 2006.10第2次印刷 北京大学術講演叢書20

福爾摩斯在中国 同上

韓高文(MICHAEL GIBBS HILL) 帰化翻訳の界限 以林紓《伊索寓言》訳本為例 『東亞人文』第1輯 北京・

- 生活・読書・新知三聯書店2008.10 電字版
- 王 輝 翻譯与救国：林訳《伊索寓言》析論 『英語研究』第9卷第1期 2011.3
- 漁 隱 林訳《伊索寓言》 ウェブサイト漁隱の博客 2011.6.28
- 陳 宏淑 身世之謎：《苦兒流浪記》翻譯始末 台湾『編訳論叢』第5卷第1期 2012.3 電字版
 明治与晚清翻譯小説の訳者意識：以菊池幽芳与包天笑為例 『中国文哲研究通訊』第22卷第1期 中国翻譯史專輯(上) 2012.3 電字版
 自己的日本自己抗 抗日史料的故事 『台湾文学館通訊』第46期 2015.3
 CHEN HUNG-SHU : CHINESE WHISPERS: A STORY TRASLATED FROM ITALIAN TO ENGLISH TO JAPANESE AND, FINALLY, TO CHINESE (伝話遊戯：一個層層転訳的故事) 『東亞觀念史集刊』第8期 2015.6 電字版
- 潘 少瑜 維多利亞《紅樓夢》：晚清翻譯小説《紅淚影》の文学系譜与文化訳写 『台大中文學報』第39期 2012.12 電字版
 世紀末的憂鬱：科幻小説<世界末日記>の翻譯旅程 『成大中文學報』第49期 2015.6 電字版
- Michael Hill 著、劉蘊芳訳 Michael Hill《林紓文字製造廠》作者自叙 CCSA “Talk to the Author” 第2期 2013.2.18 電字版
- 崔 文東 【書評】Michael Hill《林紓文字製造廠》 CCSA “Talk to the Author” 第2期 2013.2.19 電字版
- 張 治 林訳小説作坊の生産力 「上海書評」『東方早報』2013.3.24 電字版
- 郝 景東 孫毓修《伊索寓言演義》編訳出版中の読者順応策略探析 『出版発行研究』2014年第6期 2014.6.15
- 王 仲遠 読《伊索寓言》隨筆 庄際虹編『伊索寓言古訳四種合刊』上海大学出版2014.8 近代名訳叢刊
- 衛 未 林紓、周作人の翻譯辨析 《伊索寓言》為例「院校平台」『名作欣賞』2014年第23期 2014.8
- 小松昌弘 長尾雨山 東大古典講習科と教科書事件をめぐって 『書論』第40号 2014.8.25
- 馮 維維 林訳《伊索寓言》改寫研究 『安陽工学院學報』第14卷第1期(總第73期) 2015.1
- 黃 幼嵐 從目的論視角看林紓兒童文学翻譯 以《伊索寓言》為例 『泉州師範学院學報』第33卷第1期 2015.2 電字版
- 朱 永番 【書評】《中国近代小説編年史》：開放立体的近代小説系統 『中華讀書報』2015.2.25
- 陳 宏淑 翻譯「教師」 日系教育小説中受到双重文化影響的教師典範 『中国文哲研究集刊』第46期 2015.3 電字版
- 楊 文瑜 近代中国における『不如帰』の翻案作 『東アジア日本語研究・日本文化研究』第18輯 2015.3.31
- 付 登舟 『清末民初武漢報刊研究』 武漢出版社2015.5
- 張天星編著 『晚清報載小説戲曲禁毀史料彙編』上下 北京大学出版社2015.10
- 王 增宝 清末民初『藝術』身份の確認 北京・中国社会科学出版2015.7 東北師範大学文学学院文昌論叢
- 古 二徳 (CÉSAR GUARDE-PAZ) Lin Shu 's Unidentified Translations of Western Literature 林紓未被辨識的西方文学訳本 新加坡『亞州文化 ASIAN CULTURE』39 2015.8
- 呂 維維 《伊索寓言》訳本比較閱讀 『中華讀書報』2015.8.5 電字版
- 連 燕堂 『林紓：訳界之王』 瀋陽・遼寧人民出版社2015.9 文化怪傑
- (美)魏愛蓮著、馬勤勤訳 『美人与書：19世紀中国の女性と小説』北京大学出版社2015.11 文学史研究叢書
- 王啓偉、李宝珠 論孫毓修《伊索寓言演義》中教育功能的建構 『淮北師範大學學報(哲学社会科学版)』第36卷第6期 2015.12
- 江 曙 商務印書館と林訳小説 『中国社会科学報』2015.12.10 電字版
- 顧 艷 『林紓伝 訳界奇人』北京・作家出版社2016.1
- 宋 麗娟 中西小説翻譯的双向比較及其文化闡釈 『文学遺産』2016年第1期 2016.1.15
- 陳 大康 論近代小説觀之變遷 『文学遺産』2016年第2期 2016.3.15
- 周 興陸 “小説改良会”考探 同上
- 程 亜麗 從“神女”到“凡女” 論20世紀妓女敘事的話語變遷 『中国現代文学研究叢刊』2016年第3期(總第200期) 2016.3.15
- 王 曉恒 在文学与政治之間：《盛京時報》時期的穆儒丐 『中国現代文学研究叢刊』2016年第3期(總第200期) 2016.3.15
- 瀬戸 宏 『中国のシェイクスピア』松本工房2016.2.29
- 北原尚彦 【書評】『上海のシャーロック・ホームズ』：清朝発幻想的な事件簿 『中國新聞』2016.3.13
- 樽本照雄 『初期商務印書館研究(増補版)』日本・清末小説研究会2016.5.1 電字版
- 樽本照雄 『商務印書館研究論集(増補版)』日本・清末小説研究会2016.5.15 電字版
- 陳 宏淑 翻譯「教師」 日系教育小説中受到双重文化影響